

SUNRISE MINISTRY

アンカー



Anchor



Garden Tomb
John 19:41

ゴルゴタとイエスの墓



ノアの箱舟



紅海の渡渉

神が人類の歴史と
密接に関わっている
数々の「証拠」

それらは時を経ても
「地球」から
消す事ができない



近年の驚くべき考古学的発見！

信仰によって進む

信仰による義認と第三天使の使命—第1部—

“一つの石もほかの石の上に残されず”

あしあと 他

49号

2012年8月

驚くべき発見!聖書考古学講演会	3
金城 重博	
信仰によって進む	20
レベッカ・トウルニエール	
信仰による義認と第三天使の使命—第1部—	23
金城 重博	
“一つの石もほかの石の上に残されず”	28
ハル・メイヤー	
あしあと	38
オバマの「CHANGE=変革」は、このような変革も含んでいたのか?	40
金城 重博	
靈感の言葉	42
米国のメガチャーチ	43

2012年 秋のセミナーのお知らせ

講師:ハル・メイヤー氏

Keep the Faith Ministry(信仰を守り続けよ) 代表

テーマ:

- 1.間違った独立とは?
- 2.グローバリズム—世界政府への動き—預言の成就
- 3.マディソン・カレッジ(自給伝道学校):秘密の歴史
※真の教会・教会組織との関係・家の教会はどうあるべきかなどの研究。



日時:2012年10月26日(金)~28日(日)

26日(金)—午後2:00~7:30<休憩を挟み 3 講義>

27日(土)—午前9:15~安息日学校・礼拝、午後2:00~5:00<2 講義>

28日(日)—午前9:30~午後7:30 休憩を挟み 5 講義

※日曜日にメイヤー先生は帰国されますが、有志によるダニエル書、黙示録の預言の終末的適用・研究発表会を行います。

「アンカー」:目的と編集指針

我々は次のことを信じてアンカーを出版している。

- 1.我々 SDA の働きと使命は第三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
- 2.第三天使の使命は人々をキリスト再臨の栄光の前に立ち得る特別な備えをさせるものである。(9T 98, 大争闘下 140)
- 3.第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な贖いを受ける。(初代文集 414, 5,7)
- 4.我々は神のご計画されたこの特別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に1888年以來 (RH26,1890年)
- 5.ダニエル書 8:14 の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, 5T 575)
- 6.エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。(1SM 36)
- 7.最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(錨)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの証(預言の霊)等である。(初代文集 417, 1T 300)
- 8.アンカーはリレーの最終走者の意味もある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、150年も時が延ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の今日の、義務は何か、約束のものを受け条件は何なのかを研究し、共に備えたい。
- 9.セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとい教会がどんなに背教しようとも、激しい震いの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。

サンライズ・ミニストリー

〒 905-0428

沖縄県国頭郡今帰仁村今泊 1471

TEL (0980) 56-2783

FAX (0980) 56-2881

E-mail: contact@srministry.com

Web Site: www.srministry.com

郵便振込番号 : 02080-0-12121

サンライズミニストリー

Broadcasting Messages

WEB



オンラインメッセージでは、説教内容を動画で配信しております。過去の動画もご覧いただけます。

視聴はここから

www.srministry.com

毎週土曜日午前 11 時~配信中



近年の考古学的諸発見に驚いた我々であったが、講演会の結果にさらに驚いた！小さな無力な者たちによる企画であったにもかかわらず予想外の聴衆が集まったことを見せられて心躍る思いに満たされた。

サンライズ・ミニストリーは、教会信徒伝道部役員と都会伝道について話し合い、祈って動き出した。実行委員会が発足された。地球最後の使命＝永遠の福音という主から託された使命を果たすには、我々はあまりにも小さく、巨人の前にふるえるイナゴのように思えた。ノウハウも知らない、訓練も十分受けていない者たちだが、少なくとも共通の重荷が与えられた。

2002年、ジョナサン・グレイ氏による講演会が持たれた。その講演会に、我々は、後援という立場で参加した。あの時も、多くの方々が集まった。

講師が決まった。講師の来島の日程も決まった。しかし、不安材料が多くあった。どこで講演会をするかということだ。初めてだから、手ごろなホールがいい。ちょうど大型連休なので、さまざまなエンターテインメントやその他のイベントがたくさんあるはずだ。しかも2、3日前から早々と梅雨入り宣言がなされた。世俗主義、快楽主義、拝金主義、無神論主義の人々、また進化論をどこの国よりもいち早く公立学校に取り入れた日本と聞かされているが、そんな社会状況の中で人々は集まってくれるだろうか。終戦直後には日本も沖縄も、伝道講演会に沢山の人があつまったものである。数ヶ月にわたる連続講演会もあった。テレビにどっぷりつかった戦後の日本人は、高度成長に突っ走ってきた。そういう状況の中で、人々は、聖書の講演に関心をもってくれるだろうか。せっかくニュージーランドから講師を呼んでも、人が集まらなければ、教会員もがっかりするかもしれない。エリコの城壁倒壊を命じられたようなものである。

しかし、神様の助けを信じ、準備がなされた。実行委員ならびに教会員が積極的に協力してくれた。いよいよ、4月28日の講演会当日を迎えた。初日は300人収容の「てだこ小ホール」である。役割担当の者たちは各々の位置についた。かなりの人々が開場の時間を待っていた。開場になると続々人々が入ってきた。午後6時半「あれ、あれ、へー、へー」。会場は満員になった。ロス・パターソン氏はまず「出エジプト、紅海の奇跡、真のシナイ山」について語った。

驚くべき発見！ 聖書考古学 講演会

2012年



その数 500 人を超え、後から来た人たちは、階段や廊下に座らざるを得なくなった。青年たちの特別讃美歌も人々を魅了した。奇跡としか言えない。感謝と喜びに満たされてみんな帰途に就いた。



翌 29 日の会場は、これまた立派なバプテスト英語教会である。日本人の信者も 40 人近くいるという。収容座席は 400 人である。ジョン牧師は、昼も夜も会場を貸してくれた。



昼の部と夜の部の長時間の講演。午後 1 時半開場。演題は「ソドム・ゴモラ、ノアの箱舟、イエスが葬られた園の墓」についてであった。キリスト教会だから遠慮なく緊張なく特別讃美歌を歌っている青年たち。ここでも昼は 343 人、夜は 328 人が集まった。軽い夕食もサンライズ・ミニストリーによって用意されていた。人々との親しい交わりができた。楽しく食事をしながらの親睦。理路整然と、そしてたくさん証の写真を、ビデオによって語るパターソン氏の講演を、あくびして聞いている人は見当たらなかった。最後に「真理は勝利する—グローリ、グローリハレルヤ」を全員で英語と日本語で讃美。すると会場から大きな「アーメン、ハレルヤ！」の応答。感動して司会者は会場の後ろの P A 席におられた、当教会のジョン・レイマー牧師に終わりの祈りをマイクでお願いした。快く引き受けてくださり、美しい

お祈りを捧げてくれた。

さて、3 日目の講演会である。「てだこ大ホール」。1000 人の会場だ。僭越にもこんな大ホールを借りるとは！それしかなかったのである。仕方がない思いで借りた。会衆は少なくてもいい。来てくださる方々にこの良きおとずれが伝わることを願いつつ、第一部は午後 3 時開場、終わるとこ



でも軽い軽食による親睦会。499 人が来た。演題は、「恐竜と世界的大洪水、ノアの箱舟、紅海の奇跡、契約の箱」についてであった。夜の講演にも 499 人が出席。これだけの方々が集まってくれたのだ！安堵の気持ちと感謝と喜びにスタッフも満たされた。アンケートをとると、人々がこの混乱の世界で心の拠りどころと真実をどれだけ求めているかをひしひしと感じさせられた。



延べ 1500 人の出席であった。その後も、片田舎にある今帰仁サンライズ・ミニストリーの集会所に 38 人の未信者の方々が聖書の預言についての講演に出席してくれた。





2012/05/22

金城さん：

今回の考古学講演会の疲れも癒え、お元気でおられることと思います。

ここコザバプテスト教会で皆さんとパターソン氏と共に働きに携わることができ、私達がとても祝福されたことをお伝えしたくペンをとりました。私はどの教派に属しているかということに関わらず、キリストの王国が拡大していくことに関心を持っています。この素晴らしい企画に協力させて頂きありがとうございました。パターソン氏の働きと彼の言う、我々は「聖書の真理に固く立つ」という一貫した主張に感謝します。それこそまさに私達が教会において推し進めたいビジネスであります。

あなたのグループの奉仕者たちは、技術があり有能でフレンドリーでした。ここコザで講演を聴きにいられた方々のために立派に働いてくださったスタッフの方々とフレンドリーな働き人たち皆さんにどうぞ感謝の意をお伝え下さい。今回の皆さんの良き働きと上手く組織だっている様を見て、今後また別の企画をされることがあれば、お手伝いをさせていただきたいと私たちは思っています。他にどんなことを計画しておられるのか、どうぞお知らせ下さい。

主が引き続き皆さんとサンライズミニストリーのお働きを祝福されますように！

敬意を込めて、我らの主イエス・キリストのみ名により、
コザバプテスト教会牧師 ジョン・レイマー



かつてコワイヤーでよく歌った「感謝せよ」とい
う歌を思い出し、思わず一人で口ずさんだ。

導きたもう

感謝せよ わが主に 主は海を分かちて

「感謝せよ わが主に
主は海を分かちて

み民を導く

感謝せよ わが主に

主は海を分かちて

主はみ民を導く

主はわが羊飼

御手もて

常にやさしく



やすらに導く 導き
たまえとこしえに」

詩篇136:11 イスラ
エルをエジプトびと
の中から導き出され
た者に感謝せよ、そ
のいつくしみはとこ
しえに絶えることが
ない。12 強い手と
伸ばした腕とをもつ

て、これを救い出された者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。13 紅海を二つに分けられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。14 イスラエルにその中を通らせられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。15 パロとその軍勢とを紅海で打ち敗られた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。

この度の聖書講演会の成功は、青年たちの並々ならぬ努力の結果である。「神は、人の協力なしには何事もなされない」(2SAT126)。倒壊したエリコの城壁が、それを教えている。

宣伝、広告、ホールの賃借に当たり、さまざまな協力、助言をくださった上里先生に謝意を表す。

聖書考古学の説得力

アメリカに 600 のキリスト教教派があるが、聖書をその通り受け入れている教会はどれだけあるだろうか。

ロン・ワイアット：「聖書の主要事件の証拠を神は地上に保存されてきた。そして今日、この最後の時代にこれを世界の人々に提示しておられる。サタンは、重大な問題を泥でにごらせ、不明確にしようとしている」。確かにこれほどまでに物議をかもし出している問題も多くはない。彼自身、どれほど嘲笑されてきたことか。しかし、これほど強烈に人々を聖書に立ち返らせているテーマも多くはないであろう。彼の考古学上の発見によって、多くの求める魂が聖書の確実性を信じ回心しているようである。私が接してきた方々の経験をいくつか挙げよう。

ジョナサン・グレイの経験

約 10 年前、徳間書店出版の「契約の箱」の著者、ジョナサン・グレイ氏が沖縄で講演した。オーストラリア人の彼は、かつてはセブンスデー・アドベンチストの牧師、伝道者であっ



た。後に彼は、探検家、考古学者となり、古代史の謎を探るべく世界各地を探検するようになった。彼は最初、ロン・ワイアットの発見があまりにも信じがたかったので、反論するための資料をケース一杯つめ込んで意気揚々と、遺跡発掘をしているロンに会いに行った。ところが、一つ一つ聖書の証拠と考古学上の事実を見せられ全く納得してしまった。その結果、彼自身実際に遺跡の発掘、発見に

携わったが、招待される国々で考古学的福音伝道のために飛び回っているのである。



アーロン・センの経験

沖縄のジョナサン・グレイの講演に、イギリス出身の青年が合流した。アーロン・センという青年である。彼の証を見よう。



1995 年のある日、ロンドンの街をフィアンセと歩いていると、ふと目についたものがあった。「ノアの箱舟発見！」というポスターであった。そのポスターにはソドム・ゴモラ、紅海へのルート、契約の箱についての講演もあると書かれていた。聖書について全く無知であり、これらのことについて何も知らなかった。ノアの箱舟のことは少しばかり聞いたことがあったので、それが本当に発見されたのだろうかかと半信半疑でいた。講演日になって会場に行ってみたが、教会に入ったことがなかったので非常に躊躇した。しかし、勇気を出して入り一番後ろの席に座った。初めてノアの箱舟の発見の詳細を聞いて驚いた。聖書に書いてある寸法と全く同じであると、確かにそれは人間の造った物であるという確証がつかめた。精巧な合金、化石化した木、金属リベット、

デッキの梁、均等に張られた外側の肋骨材がボートの周囲に発見されていたのだ。

あまりにも興奮して、毎晩講演会場に通い続け、週末にはクリスチャンになる決心をした。5日間の講演会で、聖書は真実なのだ、聖書に記されている奇跡は本当に起こったのだと信じられるようになった。配布されていた本を読んでもみると、日曜日が安息日であることを証明する聖句は一つもないことを発見した。そこで安息日を守る教会を探し始めた。そして、これらの発見の張本人であるロン・ワイアットと接触。自分もその働きに協力できないかと話してみると、彼は快く承諾し、一緒に中東探検に連れて行ってくれた。私はヨルダン川で彼からバプテスマを受けたのである。その前に、婚約者とは別れることにした。彼女はクリスチャンになりたくなかったからである。すでに婚約をしていたので彼女と別れるのは私の生涯にとって最もつらいことであった。しかし、どんな犠牲を払ってでも真理を探究し続けたいと思った。私の人生は全く変わったのである。以前はキックボクシングを教えていたが、今は探検隊に参加したり、福音伝道のために招かれるところで証するのを楽しみにしている。やがて私の理想とする、プロテスタントクリスチャン女性が伴侶として与えられた。結婚してもう1年になる(2001年のこと)。



ロス・パターソンとアーロン・セン

ちなみに興味のある方のために、彼のホームページを紹介しておく。www.artofthecovenant.co.uk

ロス・パターソンの経験

早い時期から私はセブンスデーの教会で教育されました。そして聖書が疑う余地のない真理であると見なすように教えられました。神が存在すること、



また神がこの世界とそこにあるすべての生き物を造ったことをわたしは疑いませんでした。しかし十代の頃、ニュージーランドで教育を受けていた私に、ある変化が起きました。そこでは、聖書とはかなり異なった思想が教えられていました。それは、地上の生命が数百万年にわたって偶然に進化したというもの、いわゆるダーウィンの進化論でありました。二十代のはじめ、「聖書に書かれていることは真実なのか、それとも作り話なのか」という疑問にさいなまれました。神は存在するのか、人間は偶然に存在するのか……。私は聖書を信じることを選びました。そして神に仕えることを誓いました。

神に仕えることとは、私たちの信仰を分かち与えることを含みます。しかし、我々再臨信徒以外の多くの友人たちにとって、キリスト教に対する大きな壁は、聖書は大部分が作り話だとしか理解していないという事がすぐに分かりました。それは世界大洪水など無かった、紅海が分かたれたという記録は全くのフィクションだ、その他ソドムとゴモラの滅亡のような聖書の記述は、ユダヤ人の律法学者によって作られたというものでした。聖書を本気でとらえて良いものと信じていない人がどうしてその中の救い主を受け入れることが出来るだろうか。

それから私は説教者を訪ねて行くことから始め、ジョナサン・グレイの働きを通してロン・ワイアットの発見に出会いました。これらの発見がかつてないほどに一般の人々の関心呼び覚ますことを目の当たりにしました。これが進化論と不可知論によって閉ざされてしまった現代社会の人々の心を開くカギになり得るのだろうか？

1998年と1999年に我々のグループはオーストラリアで集会をする為に、ロン・ワイアットを招待しました。そのために「ディスカバリー・タイムズ」誌を作成し、一連の記事を紹介しました。またも反

応は著しく、我々を驚かせました。前回に引き続き、この発見がもたらした様に、こんなに効果的に聴衆を引き寄せるものはないということを見せられました。

以後、私自身も、ほとんどすべての発掘現場に赴くことができました。そして1999年にロン・ワイアットが亡くなって後、講演をする招待を受けるようになりました。私は他の一般伝道の働きでこれほどの高い関心を獲得するプログラム、また聖書に対する誤解に真っ向から挑戦を投げかけるプログラムを知りません。これらの発見の主題が聖書は全く確実で、信頼するに値するものであること、また、これは実に単純で最高の伝道手段であるということを示しています。

この講演で人々は何を学んだのだろうか？

1. 科学的検証により、世界最古の書、聖書に記されていることが単なる創作、寓話ではなく、実際に起こったことであり、今日も全く信頼に値する書であること。
2. 聖書にまず証拠を見出し、聖句を綿密に調べた上での考古学であること。単なる推測が事実として信じられていることがどれほど多くあるかということ。
3. 真の科学と偽りの科学があるということ。科学に対する盲信がどれほど世にはびこっているかということである。世界最古の生ける神の言葉から離れた人間の研究は、単に推測の世界をさまようことがなんと多くあることかと感じさせられた。

「諸国民の起源について信頼すべき記録は、ただ聖書の中にのみ見いだされる。人間の自負心や偏見に汚されない人類歴史の記録は聖書の中にだけある。」「このこと(歴史の原理)をはっきり示しているのは、神のみ言葉である聖書だけである」「聖書、実に聖書だけが、これらのことを正しく観察している。」 教育205,207,212

4. 世の終わり、キリストの再臨が近づいていることを証していること。なぜなら、
ダニエル書12:4 「ダニエルよ、あなたは終りの

時までこの言葉を秘し、この書を封じておきなさい。多くの者は、あちこちと探り調べ、そして知識が増すでしょう。」

この言葉はダニエルの預言のことを第一義的に言っているが、考古学の発達も指しているだろう。

マタイ24:37-39「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう。」

そのために、ノアの箱舟が発見されたのだ。あとはその発掘があるだけである。トルコ政府はその発掘を許可するようである。ロス・パターソンを含む一行は9月に実施するとのこと。

ルカ17:28-30「ロトの時にも同じようなことが起った。人々は食い、飲み、買い、売り、植え、建てなどしていたが、ロトがソドムから出て行った日に、天から火と硫黄とが降ってきて、彼らをごとごとく滅ぼした。人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう。」

そのために、ソドム・ゴモラが学者たちの死海の下に埋もれているという異説を覆して、死海の西の陸地に発見された。誰でも確認できるように、ロン・ワイアットによって発見されたのだ。



5. これらの考古学的発見が次から次へと示されても、理屈をこねて信じようとする人たちがいる。

ペテロ第二の手紙3:3-5「まず次のことを知るべきである。終りの時にあざける者たちが、あざけりながら出てきて、自分の欲情のままに生活し、『主の来臨の約束はどうなったのか。先祖たちが眠りについてから、すべてのものは天地創造の初めからそのままであって、変ってはいない』と言うであろう。すなわち、彼らはこのことを認めようとはしない。」

6. しかも、これらの考古学的発見がアマチュア(しろうと)であるロン・ワイアット一人によってな

れたことは驚きである。彼は下記のような「大発見」をしたのだ。これらは考古学の分野、そして歴史の定説を覆すほどの衝撃的なものである。

- 1) 出エジプト (紀元前 1446) 時のイスラエル人の真のルート (道筋) を発見—1970 年
- 2) イスラエル人の真の紅海渡渉ルートを発見。海中にパロの軍隊の残骸を発見—1978 年
- 3) 真のシナイ山を発見—1979 年
- 4) 紀元前 586 年に姿を消した契約の箱の所在を突き止める—1982 年 (後に、深刻な事態に発展することを恐れたイスラエル政府により封鎖)
- 5) 紀元前 2345 年に漂着したノアの箱舟を発見—1977 年 (1986 年トルコ政府により認定、翌 87 年にビジター・センターが設立される)
- 6) ソドムとゴモラの遺跡を発見—1989 年
- 7) イエスが葬られた本当の墓—園の墓を発見—1989 年

彼は病院の手術室で働く麻酔の専門家であった。考古学の専門家ではないということで彼が大変な攻撃、非難を受けていることは事実である。

ある人の非難：「彼の主張は並ではない。それらはあまりにも大きすぎる…。インディー・ジョーンズがちっぽけに感じる。多くの人たちが探し求めた地球上の遺物をこれほど多く、しかも 1 人で発見するなんて…絶対不可能であるのに、どうしてロン・ワイアットはこれほど多くの主張をできるのか？」

今度は、「契約の箱」の著者、ジョナサン・グレイに送られた読者の手紙から引用しよう：

「私の一つのフラストレーションは、クリスチャンたちがこんなことを言っていることです。『ああ、ロン・ワイアットは、あまりにも大げさなことを主張している。彼は、ノアの箱舟、契約の箱、ソドム・ゴモラ、紅海の道筋、真のシナイ山、打たれて水の出た岩を発見したということだ。あまりにも多すぎる』。しかし、今日は終わりの時代で、神は人々に最後に悔い改めるチャンスを与えようとしておられるのです。

私たちは、ロン・ワイアットとあなたが、かつてないほど聖書の真実性の証拠を発見し、宣伝伝え

るために多くの金を使い、労力を惜しまなかったことに対してどれほど感謝していいかわかりません。』

ジョナサン・グレイの言葉

一人の人がどうしてこれらすべてのことを発見できたか？私は彼自身の言葉を引用する：

「彼は答えた、『それについては、私の意見を言うだけにしましょう。私の手柄ではありません。もし、10 人の人が 10 の主要考古学的発見をしたなら、人々は「ああ、彼らはラッキーだった、偉かった」と言えるでしょう。しかし、一人の人がこれらすべてのものを発見するという事は不可能なことです。たといどんな天才的な名高い人であっても。しかし、神は「知者はずかしめるために、この世の愚かな者を選ば」れるのです。神が平凡な人間を選ばれるのは、これらのことを実際に疑う余地を残さないためなのです。』

しかし、どうしてあなたが？考古学を正式に学んでもいないのに！

『そうです。おそらく神が私を選ばれたのは、ぜひ試してみたいと私が望んでいたからでしょう。—なぜか？私はわかりません。ただ、分かるのは、これらの仕事を許されたことに関してこの地球上で誰よりも私は感謝しているということです。』

しかし、どうしてあなたはそんなことを？

『それは宝のためではありません。私は聖書を字義通り信じるのです。そのために私は、神が確かに歴史に介入されたことの証拠を探すのです。…神を擁護する証拠をです。』 Discoveries: Question Answered 11.(250 の質問に答えて)

世紀の聖書考古学の 大発見者、ロン・ワイアットと はどういう人か？

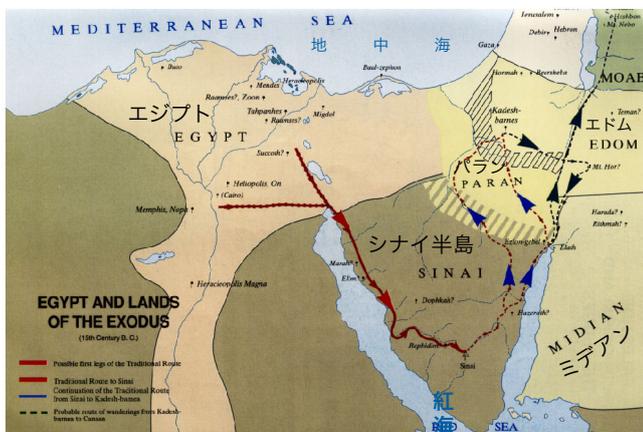
1. 出エジプト (紀元前 1446 年) の時のイスラエル人の真のルート (道筋) を発見—1970

現在「ヤベル・ムサの斜面にある聖キャサリン修道院の起源は、紀元 527 年にさかのぼる。それは最

初、コンスタンティヌス帝の母が建て、200年後にユスティニアヌス帝が建てたものである。(インタープリターズ聖書辞典、1962、p376)」

シナイ半島と一般に言われているところは、パウロの時から約300年、出エジプトから約2000年経つまでは存在しなかった。コンスタンティヌス帝は、母キャサリンを中東に派遣し、幻で見た場所を見つけさせようとした。彼女は、現在のシナイ半島のある山を、聖書のシナイ山とした。カトリックの伝説によると、天使が聖キャサリンの体をシナイ山に運んだそうだ。キリスト教会は愚かにもこの場所を本当のシナイ山と思い込んでいるため、多くの巡礼者が絶えない。

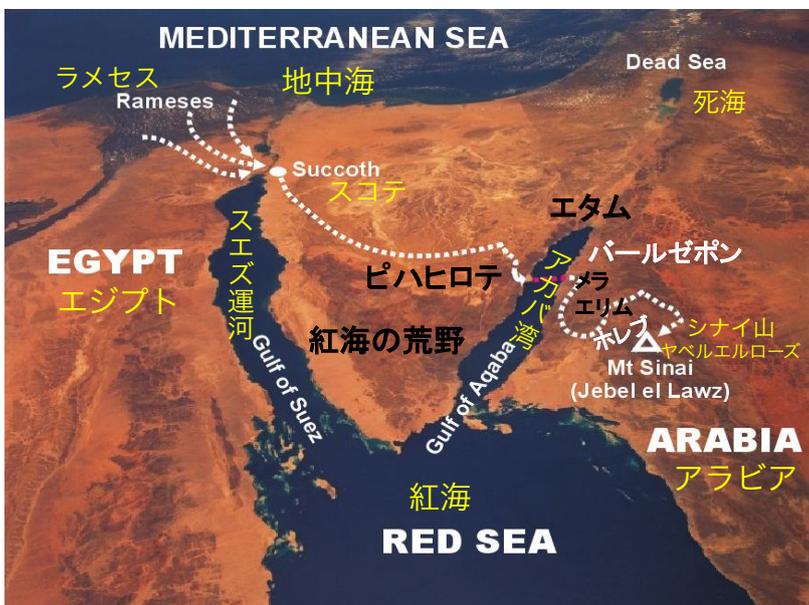
出エジプト 13, 14 章；民数記 33:6 ~を参照。



ほとんどの聖書の後ろにある地図は紅海をわたっていない！

ラムセス→スコテ→エタム→ピハヒロテ→

2. 紅海渡渉現場を発見 (アカバ湾) →ミグドル →バアルゼポン→メラ→エリム→ホレブ→シナイ山

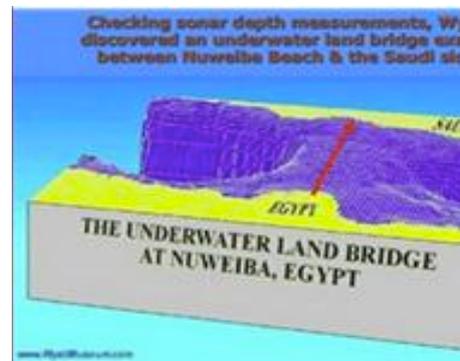


イスラエル人は、パロに『彼らはその地で迷っている。荒野は彼らを閉じ込めてしまった』(出 14:3) と言わしめるほど、追い詰められていたのである。右に左に険しい山々、前には1,600 mもある深い海、後からはパロの軍隊。しかし、驚くべき奇跡が起きたのだ！

200万人以上のイスラエル人をちょうど収容できるビーチを神は備えておられた。ヌウェイバビーチであった。しかも、ヌウェイバビーチから対岸のバアルゼポンに至るまで、老人から赤子、家畜が通れるように緩やかな橋のようになっている。この場所にしかこれほどのビーチはなかったのだ。パロの軍隊は一人も残らずこの海でおぼれ死んだ。この海底にしかパロの軍隊の残骸が見つからないのだ。そして、おびただしい

証拠があまりにも多く残っているので、反論の余地はない。

そして、エジプト側とアラビア側の両岸にソロモンが建立したと思われる巨大石柱も発見された。アカバ湾をはさんで一つはエジプト側の岸に、一つはアラブ側の岸に。



「その日、エジプトの国の中に主をまつ一つの祭壇があり、その境に主をまつ一つの柱がある。これはエジプトの国で万軍の主にしるしとなり、あかしとなる。彼らが生かす者のゆえに、主に叫び求めるとき、主は救う者をつかわして、彼らを守り助けられる。」イザヤ書19:19-20

質問

ほとんどの聖書学者は、出エジプト 14 章に記されている紅海渡渉は、スウエズ湾か、ビター湖と信じられているのに、アカバ湾と主張するのか？

ミカエル・レモニック (U.S. タイムズ誌) は「ほとんどの学者は、アブラハム、イサク、ヤコブ…は実存しなかったと推測している；多くの者はエジプトでの奴隷、出エジプトに疑問をもっている」と言っている。

多くの聖書学者に頼ることは安全であろうか？

「あなたがたは悪を耕し、不義を刈りおさめ、偽りの実を食べた。(こは汝己の途をたのみ、己が勇士の数多きを頼めるによる。)」ホセア書10:13 (文語体、欽定訳)

3. 本当のシナイ山

1. で述べたように、従来のシナイ山は偽物だったのだ。その伝説のシナイ山のふもとにある聖カタリナ修道院で、改ざんされたシナイ写本が発見された。今日のキリスト教界ではそれを、最も古い、信頼される聖書写本だという欺瞞が信じられているのだ。バチカン写本も同じである。1866年、バチカンは、長年書庫に隠されていバチカン写本をコピー

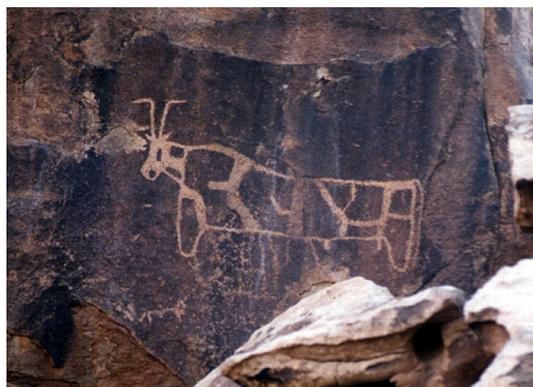


するのをチッテンドルフに許可したのであった。つまり、聖書は、カトリックが保存してきたのであると言わしめている。弟子たち、初代教会、宗教改革、再臨運動を生んだ公認本文 (Received Text) をあざけている現状である。

ロン・ワイアットは、「アラビアにあるシナイ山」(ガラテヤ 4:25) という聖句からシナイ山を調査したとき、サウジアラビアに見つけたのだ。

ロンは、次の言葉も知っていた：「わたしは必ずあなたと共にいる。これが、わたしのあなたをつかわしたしるしである。あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたがたはこの山(ホレブ)で神に仕えるであろう」出エジプト記 3:12。この山は、ミデアンにある。それにモーセが岩を打って水を出した岩もあり、その岩には子牛をまつた跡が残っている。それに山頂が火で焼かれた山もそこにあるのである。

十分な証拠は現れた。



4. 契約の箱 (アーク) の真の場所—紀元前586年に隠されたがついに発見される—1982年

多くの伝説がある：

① エチオピア



「ソロモン王は、シバの女王が贈った物に報いたほかに、彼女の望みにまかせて、すべてその求めるものを贈った。そして彼女はの家来たちと共に自分の国へ帰って行った」(歴代志下9:12)という聖句から推測して、こういう伝説が生まれた。エチオピアに帰った女王はソロモンの子供を出産。成長した息子はエルサレムの父親を訪ねてアークを頂く。それがエチオピアの神殿に保管されているという。

- ② エルサレム・聖墳墓教会の地下
- ③ シルクロードを通過してきたユダヤ人が四国の剣山に隠した
- ④ ヨルダンの東、ネボ山
- ⑤ アイルランド
- ⑥ ローマ
- ⑦ バビロン
- ⑧ その他



いつ、契約の箱は失われたのであろうか？

アークの場所についての最後の記述は、歴代志下に見られる。

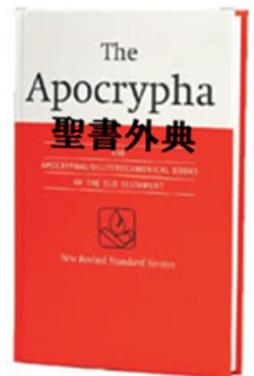
「あなたがたはイスラエルの王ダビデの子ソロモンの建てた宮に、聖なる箱を置きなさい。再びこれを肩にになうに及ばない。あなたがたの神、主およびその民イスラエルに仕えなさい」(歴代志下35:3)。

アークは、その50年後に、バビロニア軍がソロモン神殿を陥落させるまでそこにあった！(列王上8:9参照)。戦利品はネブカデネザルがバビロニアにみな持ち帰ったが、契約の箱だけはなかった(列王下25:8-16、エレミヤ52:17-23)。この時点で歴史から消えてしまった。

誰がどうしたか、聖書の記録にはない！

古代ユダヤ教の文献、マカバイ書によると、預言者エレミヤが隠したとある：

「更にこの書によれば、預言者は彼に与えられた託宣に従って、幕屋と契約の箱を携えて山へ出かけたという。モーセが神から約束の地を示された所である。5そこに到着したエレミヤは、人の住むことのできる洞穴を見つけ、そこに幕屋と契約の箱と香壇を運び込み、入り口をふさいだ。6一行の中の何人かが、道標を作ろうとして戻ってみたが、もはや洞穴を見つけることはできなかった。7このことを知ったエレミヤは、彼らを叱責してこう言った。『神が民の集会を召集し、憐れみを下されるときまで、その場所は知られずにいるだろう。』」// マカバイ記2:4-7 (新共同訳)



E.G.ホワイトは、どこに隠されたと言っているか？

「神のみこころが明らかに示された義人たちがまだエルサレムに残っていたが(ネブカデネザルがエルサレムを包囲した586BC時)、その中のある人々は、十誡の戒めが書かれた石の板を納めた聖なる箱が、乱暴な人々の手に入らないよう

にしようと思決した。彼らはそれを決行した。彼らは嘆き悲しみつつ、箱をほら穴の中に隠したのである。箱はイスラエルとユダの人々の罪のゆえに、彼らから隠されて、再び彼らにもどることはないのであった。その箱は今なお隠されている。それはそこに隠されて以来、人手に触れたことはないのである。」国下70

「神殿が破壊される前に、イスラエルの誇りであり、彼らが神に対して罪を犯していた間に偶像礼拝で満たされた神殿の破滅について、神はご自分の忠実な僕たちに知らせてあった。また、イスラエルの捕囚についても彼らに示していた。これらの義人たちは、神殿が破壊される直前に石の板が入っている聖なる箱を嘆きと悲しみのうちに移し、イスラエルの人々の目に触れることのないよう、洞窟に隠された。彼らの罪の故にそれは二度と彼らに戻ってこなかった。その契約の箱はいまでもなお隠されている。隠蔽されて以来、動かされたことはない。」(1864 SG, Vol.4:114-5)(SOP.Vol 1: 414 (1870))

それは発見されるのか？

「『主〔キリスト〕はシナイ山でモーセに語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち神が指をもって書かれた石の板をモーセに授けられた。』これらの石の板の上に書かれたことは、どれも除去することができなかった。律法の貴重な記録は契約の箱に置かれ、尚もそこで、安全に人類から隠されている。しかし神がお定めになった時に、戒めの無視と偽の安息日を守る偶像崇拜に対抗して、全世界への証となるため、神はこれらの石の板を持ちだされるであろう。」(MS 122,1901年)

いつ隠された洞窟から持ち出されるのか？

「神の律法の不変性に関する証拠はふんだんにある。それは決して抹消されたり、破壊されることのないように神の指で書かれた。神がそれらをお書きになったままの状態、石の板は神によって隠されていて、大いなる審判の日に提示される(取り出される)ことになっている。」(RH 1908年3月26日)

「審判が行われ、数々の書物が開かれる時、すべての人はその書に書かれている事柄に従って裁か

れるであろう。その時、その日まで神によって隠されていた石の板が、義の標準として全世界に提示されるであろう。その時男女は、彼らの救済の必要条件が神の完全な律法への服従であることを悟るであろう。罪の弁解ができる者は一人もいなくなる。その律法の義の原則によって、人々は生か死かの判決を受けるであろう。」(同 1909年1月28日、スタディバイブル旧127,128)

「神はご自分の契約をお破りにならず、またみ口から出たことをお変えにならない。神の言葉は、神のみ座のように変わることなく、永遠に固く立つのである。審判のときに、神の指によって明らかに書かれた。この契約が持ち出されて、世界は無限の神の審判廷に引き出されて、宣告を受けるのである。」国上155

まとめ：

- 契約の箱は「神の定められた時」まで隠される。
- それは「神の裁きの時」までである。
- 「戒めの無視と偽の安息日を守る偶像崇拜に対抗して、全世界への証となる時」である。
- それは、黙示録 13 章にある全世界の人々が獣の刻印を強要される時である。

ロン・ワイヤットはなぜ、この大発見を持ち出して世に提示しなかったのか？

これらのことを読んでいたので、信じて待った。神の摂理にゆだねたのだった。

もし、今、これが世に持ち出されたなら、どうなるだろう。

E.G. ホワイトの預言は、成就しないことになる。

「この歴史的な大発見が、その地を支配するイスラム教徒と聖都奪還を強行的に願う多くのユダヤ教徒右翼派の間で対立を激化させ、戦争の起爆剤になることを知ったネタニヤフ首相が、中東和平実現の政治的目的から発掘も立ち入りも全面凍結してしまいました。…現在も埋め戻されてイスラエルの政府当局の機密扱いのまま眠っているのです」泉パウロ(驚愕の対策、213)。

(※編集者は必ずしもこの本のすべてを真実として受け取っているのではなく、その中の表現を借用しているのみである)。

ジハード(聖戦)が起こり得るのだ。しかし、実際、発掘を試みて11人も惨めな死に方をしたという。「実際政府が一度この契約の箱発見のニュースを実験的に流して第三神殿建設の可能性を公示して反応を調べた結果、1990年10月8日にシオンの丘大虐殺と呼ばれるユダヤ人とアラブ人の間に民族大暴動を引き起こし、多数の死傷者を出すというにがい経験もありました」同上215。



最も物議を醸しだしている(最も論議を引き起こす)、契約の箱の上に注がれたイエスの血

しかし、これこそ神が地球上に残された最大の「指紋」と私は思うのである。

- イエス・キリストが神の子であるということ
- 神の律法は永遠不変のものであるということ
- イエス・キリストご自身が全人類の刑罰を代わりに受けられ、ゆるされたこと
- 人類を救うという約束をご自身の血をもって果たされたこと

ロン・ワイヤットの講演後、質疑応答の時のロンと聴衆のやりとりがDVDになっている。その一部を紹介しよう：

「キリストが死なれたとき、地震が起こり、十字架の穴の左側に裂け目ができました。裂け目の真下、6メートルほどのところに、神様は、ご自分の地上の御

座である贖罪所〔恵みの座〕がある契約の箱を、紀元前586年に据えておられたのです。バビロニア軍がエルサレムを破壊した時のことでした。ご遺体をアリマタヤのヨセフに引き渡す前に、死んでいることを確かめようとして、百卒長が矢をキリストの脾臓に突き刺したとき、神の御子の分離した血小板と血漿が流れ出て、裂け目を通して贖罪所に注がれました。その事が、古い契約と新しい契約を批准したのです。箱の置かれている部屋は、ちりひとつない状態でした。すべてが完全に秩序正しく配置され、契約の箱は洞穴の奥の壁を背にして置かれていました。洞穴の奥は、虹色に美しく輝いていました。ニューエイジや同性愛の団体などが虹のデザインを使うのは知っていますが、最初に虹をつくられたのは神様であり、天の御座の周りにも、地上の御座の周りにも虹があるんです。そこに垂れ布はありません。そこが、地球上の神の宮であります。かつて神様が住まわれた場所です。そして中には、四人の若者が立っていました。私は『ここで何をしているのですか?』と尋ねた途端に動けなくなり、息もできなくなりました。すると一人の若者が、『私たちは、モーセが石の板を納めて以来、箱の番をしている天使です』と答えたのです。彼らは私に、ビデオカメラを三脚にのせて契約の箱に向けるよう指示しました。それから、贖罪所を持ち上げてくれました。どれほどの重さの物かは分かりませんが、純金で覆われています。一人の天使が、『石の板を箱から出さない。神はすべての人にそれを見てもらいたいのです』と言ったので、言われたとおりにしました。彼らが贖罪所を箱の上に戻したとき、私が少し後ずさりすると、天使が来て私の手から石の板をとって岩棚の上に置きました。それから私は、贖罪所についている血液をサンプルにとって、それを分析させるようにとの指示を受けました。天使に言われたことは、すべて行いました。

手短かに申し上げます。乾燥した血液が死んでいることは周知のとおりです。今日、古代ファラオのミイラから血液をとって、こまごまと調べることができますが、染色体の数を調べることはできません。科学はどんどん進歩していますが、私は何でも知っているわけではありませんが、死んだ血液を調べても、染色体の数は分からないのです。DNAやその他いろいろな情報を得ることはできますが、染色体の数だけは、生きた白血球からしか分かりません。まず、契約の箱からとった血液をイスラエル国内の研究所に持っていき、「いい仕事をしてくれる信頼できる研究所はどこですか?」と尋ね回ったら、『どこそこがいい』と教えてもらったので、そこにサンプルを持ち込みました。研究所に行き、『この血を検査して、何でもいいから分かったことを教えて下さい』と頼みました。まずはそれを還元してから、体温と同じ温度にして72時間ゆっ

くり回し続けるとのことでした。いよいよ検査するときは私も立ち会いたいと言ったら、よろしいと言われました。さまざまなテストの結果、人間の血液であることは間違いないということでした。次に、そこから白血球をとり出して、成長媒質に入れてから、体温と同じ温度で48時間たもつように頼んだら、これは死んだ血液なので、そんなことをしても意味がないと言われました。私が、『それでもいいからやっていただけますか？』と言ったら、『では、やりましょう』とのことでした。今度も、取り出して検査するときは、立ち会いたいとの旨を伝えました。いよいよ顕微鏡とかを使った検査が始まったのですが、検査官が別の技術者を呼んだり、上司を呼んだり、ヘブル語でいろいろ話していました。それから私に向かって、『ワイアットさん、この血液には染色体が24個しかありません』と言うのです。ヒトの染色体は全部で46個です。父親から23個、母親から23個。父親から22個の常染色体、母親から22個の常染色体。母親からX染色体、父親からXかYどちらかの性染色体を受け継ぎます。この血液には、母親からの23個の染色体と、1個のY染色体がありました。母親からの常染色体がなければ、この人は発育できなかったはずで、すべから、すべての身体的特徴は母親側からの遺伝情報によって決定されました。男性という性は、そのひとつのY、人間の男性から来たものではない性染色体によって決定されたのです。それから、こう言われました。『この血液は生きています。いったい誰のものですか？』私は、『これは救い主の血です』と言いました。以来、彼らの人生は変えられたのです。

わき腹から流れ出たイエスの血、深紅の流れは下の岩に落ち、さらに真下にある契約の箱の贖罪所に注がれ、古い契約と新しい契約を批准した。

地に隠された血について述べている旧約聖書の言葉がある。

「これが水と血によって来られたお方、すなわちイエス・キリストであります。水によるだけでなく、水と血によって来られたのです。そして、そのあかしをするのが霊です。天においてあかしをするものが三つ、すなわち父と、言と、聖霊であり、これらの三つは一つだからです。そして、地においてあかしをするものが三つ、すなわち霊と、水と、血であり、これらの三つは一致するのです。もしも私たちが人々のあかしを受け入れるなら、神のあかしはさらにまさっています。なぜならこれは、神が御子についてあかしされた神のあかしだからです」 I ヨハネ 5:6-9 (欽定訳)

今日、十戒を古い契約に基づくものとし、いくつかの戒めはクリスチャンに当てはまらないと説く人たちがいます。確かに私たちは、行いによってでなく、恵

みを信じることによって救われます。私たちは、創造主の契約の規定を無視してはいけません。律法を守ったから救われるわけでもありません。しかし、これらの戒めが石に刻まれ、決して変えられないことを覚えなくてはなりません。もし変更可能なら、イエスは死ななくてもよかったです。ロンは、シナイ山でモーセが授かった十戒の石の板が、いつかとり出され、裁きの基準として宣言される日が来ると信じ、その信念に基づいて生涯を全うしました。聖書考古学の発見は、神の注意喚起の道具であると彼は言っていました。十戒が過去の遺物ではないことを、彼は人々に伝えたいのです。キリストの時代のはるか昔、詩篇記者は、贖いと律法の不変性について述べています。「主はその民にあがないを施し、その契約をとこしえに立てられた。そのみ名は聖にして恐れ多い」(詩篇 111:9)。ロンは、多くの人たちが天国に入る手助けをしたいと望んでいました。彼は私たちが、黙示録 14:12 で述べられている聖徒の一員となることを望んでいました。「神の戒めを守り、イエスの信仰を持ち続ける」民であります。聖書の結論部に書かれている御言葉を覚えましょう：「命の木にあずかる権利を得、門を通過して都に入るために、主の戒めを行う者たちは幸いです」(黙示録 22:14)。ロンは私たちに思いやり、私たちに門へ導いて永遠の命に入らせる戒めに注意を向けさせようと、できるだけのことを行いました。

私たちがイスラエルで働いていたときに、ある有名な考古学者がそこを訪れ、とてもいい質問を投げかけました。ロンが信じたように、契約の箱が現れたとしたら、それが本当に人々の生き方を変えるだろうか？と尋ねられました。私は、間違いなく、そうなるだろうと答えました。イエスの血が契約の箱の贖罪所に注がれたことが実証されるなら、律法は過去の遺物であると教えられてきた多くのクリスチャンが、十戒の不変性について悟るだろうと私は信じます。またユダヤ人も、ナザレのイエスがイスラエルの救い主キリストであられることを悟るでしょう。契約の箱をめぐる私たちの働きの目的は、それです。ロン・ワイアットも同じ気持ちでありました。

5. ノアの箱舟

アララテ山は何回か噴火している。もし、箱舟がアララテ山に止まっていたとしたら、相次ぐ火山の噴火で破壊されていたであろう。聖書は、アララテ山とは言わず、“And the ark rested… upon the Mountains of Ararat. / 箱舟は…アララテの山々にとどまった”と言っている。アララテは、“Urartu / ウ



Mt. Ararat after 1848 eruption. (On NE side).

ラルトゥ王国”のことで、どの山とは指定されていなかったのだ。

そして驚くべきことに、ロンによって発見された箱舟の長さは聖書の記述通り、正確に300キュビトであった。

1989年、トルコ政府は、この場所にビジター・センターをオープンした。

ジョナサン・グレイ著「契約の箱」林陽訳から引用しよう：

「本書は、その発掘者にして、世界的に有名な探検家、ロン・ワイアットの聖櫃発見の物語を世界に先駆けて発表する。驚異のノン・フィクションである。その発見は、あまりに衝撃を呼ぶ性質のものであるため、今もその全貌は明らかにされてはいない。

ロンは、アメリカ人考古学者、探検家で、特に、トルコ東部アララト山におけるノアの箱舟の発掘者として有名である。紅海の海底では、モーゼの出エジプトの現場を、古代の戦車の残骸とともに



THE REMAINS ARE EXACTLY 300 CUBITS LONG!



発見。サウジアラビア北西部では、定説とは異なる「真の」シナイ山を発見し、死海ではソドムとゴモラの遺跡を発掘するなど、聖書考古学界に多くの波紋を起してきた人物だ。…

ロンは、数年がかりの困難に満ちた発掘により、イエス・キリストに関する聖書の記述—処女降誕から十字架までの死、そして復活—をすべて物的に実証したばかりか、イエスがユダヤ人にとってのメシアでもあったことの、決定的証拠を手にしたのである。」

6. 真のソドムとゴモラの場所を発見—1989年

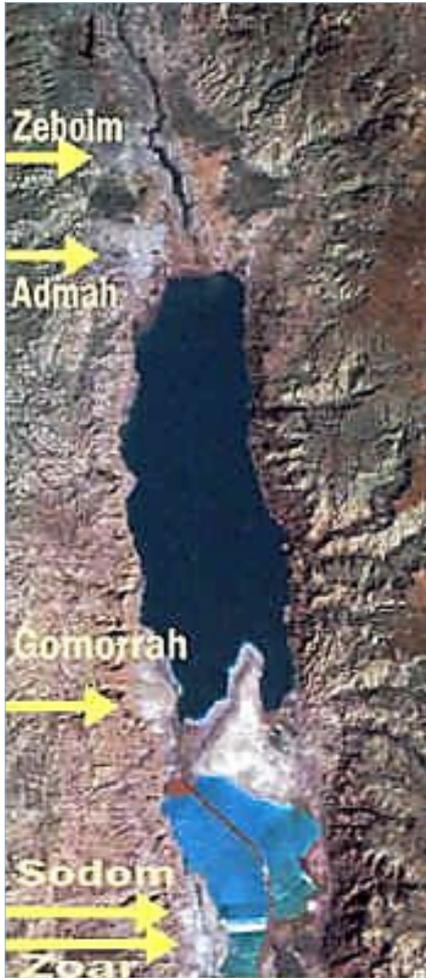
ソドムとゴモラについても、我々は専門家に惑わされていた。死海の北側の水底に埋もれているとか、死海の南側に埋もれている、といった推測を信じていた。しかし、ロン・ワイアットは、死海の西側に歴然と横たわっているソドムとゴモラの遺跡を発見したのだ。





ポンペイの遺跡には 2000 年前の大噴火によって滅ぼされた跡が今も生々しく残っているという。ソドムとゴモラの廃墟は、灰の山とおびただしい丸い硫黄が残っているだけ。しかも、この硫黄はこの地球上にある他の硫黄とは異なるものだという。ジョナサン・グレイは、それを聴衆の前で燃やして見せてくれた。

一世紀の有名なユダヤ人歴史家ヨセフスも、ソドムとゴモラは、死海の中でなく、地上に見えていたと証言している。ならば、今もあるはずだ。ロン・



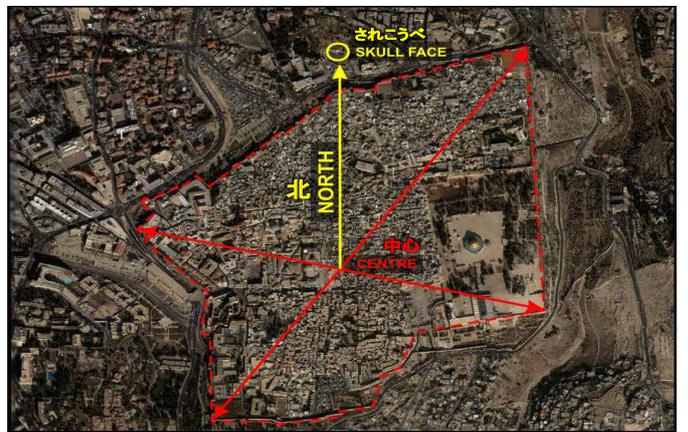
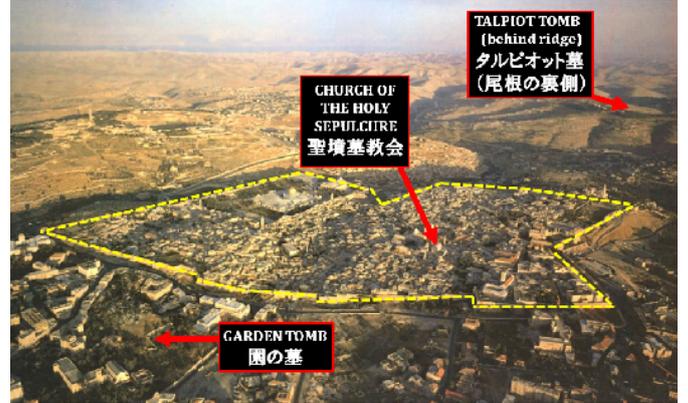
ワイヤットは、誰も見たことのない場所に廃墟となっているソドム・ゴモラ（都市）を発見したのだ。

創世記 10:19 に「カナンびとの境はシドンからゲラルを経てガザに至り、ソドム、ゴモラ、アデマ、ゼボイムを経て、レシャに及んだ」とあるが、その記されている順序で見つかった。

7. イエスが葬られた本当の墓—園の墓—1989年

レビ記 1:11 に「彼は祭壇の北側で、主の前にこれをほふり、・・・」と書いてある。

メシア—神の小羊は、旧エルサレム市内ではなく、



市街の北側で死んで、葬られたはずである。

イエスの墓には三つの説がある。聖墳墓教会に葬られているとされる推測場所は、毎年、毎日たくさ



聖墳墓教会内部



んの巡礼者が訪れて金を落していく。

しかし、園の墓の左側にあり、重量 13-18 トンと推定されている大きな、転がる円形の岩の戸があった（現在は紛失している）。



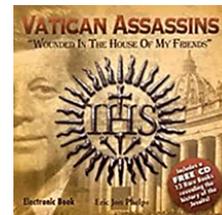
「信じるか信じないかは あなた次第！」

これは、都市伝説という番組の決まり文句であるが、これらの考古学的発見についても賛否両論が飛び交っている。

私は個人的に、ロン・ワイアットの発見が、「清い心と正しい良心と偽りのない信仰とから出てくる愛」に基づくものであると信じている（1テモテ 1:5）。ワイアットに会ったことはないが、彼の謙遜な態度を（ビデオで）目にし、彼のあとを継ぎ、さらなる確証をひたむきに求める人たちの姿を見ると、そこに真理の光を認めるのである。

残念なこと！

「弁解の余地がない」「明らかに認められる」（ローマ人への手紙 1:20）ほどであっても認めようとしない人々がいるものである。それどころか、あえてあざ笑い、攻撃する人々もいる。インターネットを見ればどれほどこの発見が反対にあっていられるかを知ることができる。



「侮辱のことが浴びせられても、神は真理が前面に出され、検討と論議の主題になるよう意図しておられる。人々の心を、ゆり動かさなければならぬ。あらゆる論争、あらゆる非難、良心の自由を束縛するあらゆる企ては、ともすれば眠りをむさぼりがちな人心を、目覚めさせる神の手段である。」 祝福の山42

たいていの人々は、この発見について自分で調べず、あるいは講演を聞きもしないで否定します。

今度の講演会の詳しい内容は、ぜひ DVD でお聞きになってください。

「また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるの

は、自分らの救となるべき真理(真実)に対する愛を受けいれなかった報いである。」 テサロニケ人への第二の手紙 2:10

ベストセラーとなった、「Vatican Assassins」の著者、エリック・ジョン・フェルプスは、イエズス会の世界支配陰謀に最も詳しい一人である。彼曰く「聖書の最も重要な数々の考古学的発見をすることによって、ロン・ワイアットは考古学界の多くの人を驚かせた！ 神の言葉に対する単純な信仰と彼の信じる天の父との親密な交わりにより、多くの人々が切望していた特典が彼に与えられた。ロンはがんと戦い、1999年8月に亡くなった。徹底的に彼と共に考古学の調査に加わった彼の家族は、引き続き考古学の調査にたずさわる計画をしている。有名な探検家、考古学者、著述家、であるジョナサン・グレイは、ロンが正しいか間違っているかを証明しようとした。彼は事実を検証するために持てる金を費やした。彼の発見は驚くべきものであった！」と言って、ロン・ワイヤットのDVDを強く薦めている。

もちろん、疑い、反対する人も多くいる。読者自ら調べてみるといい。

真実の追究を

！

イエスの時代もそうであったが、いつの時代も、偽善、伝説、巡礼を好む人は多い。そのような人は家内安全、いやし、ご利益のためにどんな遠い所へも行き、金銭を惜しまない。命を惜しまない人たちもいる。聖地エルサレム巡礼、バチカン巡礼、メッカ巡礼、偽シナイ山巡礼、と数知れないほどそのような場所が地球上にある。その中で、最大の巡礼地はバチ



カンとメッカであろう。

この世の君と呼ばれているサタン、偽りの父(ヨハネ 12:31、14:30、16:11)によって数知れない人が偽善に操られている(ヨハネ 8:44)。真実につく者はいつの時代も少数であった。

● 世界三大聖地の一つメッカ(マッカ)

イスラム教の2大聖地、100万人収容の礼拝施設、白亜の預言者のモスク(マディーナ、メディナ)は、サウジアラビアのマディーナにあるイスラム教の礼拝堂・モスクでイスラム教の第2の聖地です。預言者ムハンマドの霊廟でもあります。現在10本のミナレット(尖塔)のある白亜の巨大な建物は1995年にでき、マッカにあるマスジド・ハラーム同様、100万人の収容が可能です。

● バチカン=カトリック教?

広場の長径：240 m。約30万人収容可能。



信仰によって進む

レベッカ トゥルニエール
by REBECCA TOURNIAIRE

神が過去に起こった事柄に対しどのような反応を示したかを聖書から調べ、学ぶことはいつも慰めとなります。神がそのメッセージを伝えるために、物的な物をどのように使われたかを考古学的発見で学ぶことができました。多くの人は、神がなぜただ1人の人、ロン・ワイアットに契約の箱を示し、他の人にそれを明らかにされないのか、あるいはどうして神はすべてを明らかにせず、見なくても信じて行動する人を待っておられるのかと言います。私は、この問題についても、神が過去にしたことを見ることによって、その答えを見いだすことができると信じます。キリストが復活されたという出来事は、聖書において小さい出来事ではありません。それこそ最も重要なことの1つであります。しかし、どうして神があえてあの一大事件—キリストの復活をあのように処理されたかという事は、軽く見過ごしてはならないことだと思います。なぜ、まず弟子たちにすぐご自身を現わされなかったのか。この問題は、極めて重要です。そして、それは今度の契約の箱の問題と結びつけて考えることができると信じます。キリストが復活された時、最初はただ一人の人に自分自身を現わされました。その当時、キリストが復活したという話題は、新しい光ともいべきものでした。一人の人によって、新しい光が伝えられ、それを信じる人たちに実際の証拠が示されました。契約の箱＝アークの発見も全くその通りです。一人の人によって契約の箱が発見されました。

キリストが復活された時に、彼に会った最初の人は誰でしたか？それはマリヤでした。彼女は、かつては売春婦でありましたが、キリストの弟子の一人となりました。十一弟子の一人でもなく、王でもなく、ユダヤ人の指導者でも、キリスト教会の指導者でもありませんでした。主はまず、たった一人の謙虚な人に彼自身を現わされたのでした。今度の考古学的発見の場合も全く同じです。これらの驚くべき発見に、ロン・ワイアットが唯一の謙虚な目撃者として用いられることによって、我々は神が全く同じことをしておられるのを見ること

ができます。

マリヤはその時、すべてのキリスト教徒に復活の良い知らせを広める大事な役割を果たしました。しかし、多くの人は、自分自身で証拠を見ていなかったのだから、信じようとしませんでした。トマスは、自分で直接イエスのお体に触れないかぎり、決して信じないと宣言していました。キリストの復活と契約の箱発見の類似点は、どこにあるのでしょうか？ ロン・ワイアットは、憐みの座の上にキリストの血を発見し、良き知らせを広めることに取り組みました。しかし、嘆かわしいことに、すべての神の民が信じたわけではありません。

キリストがエマオへの途上にあつたとき、彼の2人の弟子に会いました。しかし、彼は御自身をすぐに現わすことを保留されました。彼は、ご自分が復活の主であることを示さないまま、彼らと一緒に歩きました。彼は言いました：

「ああ、愚かで心のにぶいため、預言者たちが説いたすべての事を信じられない者たちよ。」と（ルカ24:25）。最初にイエスは、復活という新しい光について教えなければなりませんでした。彼らはまず、その重要性を理解しなければなりませんでした。

主は彼らが証拠を見る前に、聖書が彼について何と言っているかを理解するよう望まれました。彼らが新しい光を受け入れる用意があるときのみ、彼を認識できるように彼らの目を開かれたのでした。ただ新しい光が受け入れられた時にのみ、キリストは彼らにご自身を現わされ、証拠を見せたのでした。

キリストは彼らに聖書を説いた後も、認識されないまま歩き続けようとしていました。その時点で、2人の弟子たちは、聖書の証拠に関して口論したり、あるいはもうこれ以上興味を示さないようにすることもできました。彼らはまだキリストを見ていなかったのだから、聞くことを拒否することも、あるいは「キリストは、なぜ売春婦であった

者にのみご自身を現したのか？」と尋ねることもできたかもしれません。けれども彼らはイエスが聖書から示されたことを受け入れたので、彼らの所を去らないで一緒に来て、そして泊まるように強いたのでした。想像してみてください。もし彼らがキリストの教えを拒絶していたなら、どうなっていたでしょう。おそらくキリストは彼らにご自身を現わされなかったでしょう。そして彼らはこのような素晴らしい祝福を逃すことになったでしょう！今日の状態はそれと同じではないでしょうか。

私は今日、このことを神が我々にしきりに教えようとしておられるのだと信じます。神は、ただ証拠を待っているだけの我々に、この発見が聖書的に何を意味するかを教えようとしておられます。証拠を見せる前に、そのことをまず学ばせようとしておられるのです！物的証拠を見る前に信じることを拒否するなら、弟子のトマスとまったく同じではないでしょうか？我々の前には、聖書からの証拠があります。が、ある人々はそれだけでは十分ではないと言います。証拠を見る前に、キリストが、聖書から真理を教えようとしておられることに協力しようではありませんか。

では、神がこの発見に関して我々に与えた新しい光は何でしょう？それは、キリストの血と水が注がれたということは、神の律法が新しい契約の一部であって、永遠に不変であることが確証されたことです。すなわち、神の律法は十字架以前も十字架以後も決して廃止されてはならないものであるということです。もし我々も同じようにキリストを招き入れるなら、この発見が、終わりの時に現わされるとき、我々はその証人となるでしょう。神の律法を犯すように強いられる時、すなわちある宗教的な慣習が立法化されるという世界的な事件が起きるとき、契約の箱が、全世界の人々に示されるでしょう。嘆かわしいことは、神が今我々に示している聖書からの証拠に、多くの人々が関心を示さないことです。彼らは、聖書を受け入れる前に、物的証拠を見たいのだと言います。もしエマオへの道で二人の弟子が「我々はそれを聖書から調べることができるでしょう。しかし、我々は、それを信じる前に、物的証拠を見るまで、待ちます」と言ったなら、どうだったでしょう？彼らは心から真理を喜ばないので、これらの発見を疑い、キリストは彼らを通り過ぎたことでしょう。そのような人は、次の聖書の言葉の背後にあるメッセージを理解していないようです。

「アブラハムは言った、『もし彼らがモーセと預言者にとりて耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう』。」ルカによる福音書 16:31

キリストは、証拠を現わす前に、新しい光を聖書から教えました。ロンの発見について、「最初に証拠を見せないというのは、神が働く方法ではありません」という人たちは、間違っています。彼らは、上記の聖書の言葉を忘れていないか、あるいはそれを否定する人たちです。

暗闇にとどまる二つの確かな方法があります。まず第一は、すでに我々に明らかにされた光に従うことを拒否することです。そして第二は、我々に明らかにされつつある新しい光に従うことを拒否することです。契約がどのように確認された（ヘブル 9:19）かについて、モーセと預言者に耳をかたむけることを拒否する人は誰でもその事が起きるのを見るとき、それを信じることは難しいでしょう。おそらく、それをサタンの働きであると言うでしょう（ある人たちはすでにそう言っている）。

ここで学ぶべき重要な教訓は、聖書の証拠が物的証拠にずっと優先するということです。もし聖書が何か本当であると言っているなら、たとえ我々が物的証拠を見ることができないとしても、それは本当なのです。それは、我々が最終的な権威として聖書を取るか、あるいは物的証拠をも必要とするかどうかについての、つまりは信仰のテストになります。2人の弟子は、イエスがご自身を彼らに現すという証拠を見せる前に、最初に新しい光を受けて、イエスを招き入れなければなりません。そして彼らは、「道々お話になったとき、また聖書を説き明してくださったとき、お互いの心が内に燃えたではないか」と言いました（ルカ 24:32）。

ここで主は、我々に何を教えているのでしょうか？全世界に及ぶ宗教的な法律が強要されるとき、それに従うことによって獣の刻印を受けるか、それとも神の律法を守るようにとの警告を発するかです。キリストがルカの福音書で言われた言葉を覚えていますか？「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」（ルカ 19:40）。世界に対して、獣の刻印を受けないように、神の戒めを守り、イエスの信仰を守るよう警告するはずであったクリスチャンの運動は、これまで大きな成果をあげてきませんでした。キリス

トは「あなたがたに言うが、もしこの人たちが黙れば、石が叫ぶであろう」(ルカ 19:40)と言われたが、宗教的な法律が通過した後、本当に石の板が叫ぶでしょう。

「主なるわたしは変わることがない」(マラキ 3:6)。彼が弟子たちに言われたことは、同じくその時にも適用されるでしょう。その時、本当に石の板が世界に叫びをあげるでしょう。我々は、その石の板と共に叫ぶでしょうか。それとも、大いなる叫びを黙らせる方に回るでしょうか。

列王記下と歴代志下の物語を覚えていますか。あなたはモーセが血と水を注いだ契約の書を覚えていますか？ それは古代ヘブライ人と神の間の契約を含んでいました。そして、それが長い間失われた後、不思議にも発見されたのです。ヨシア王の前のすべての王は悪しき道に従っていましたが、ヨシア王は国王に就任したとき、改革を始めました。律法が読み聞かされたとき、彼は深く感動しました。それは、モーセによって書かれた契約でありました。聖書は、彼がその中に書かれたすべてを知っていたわけではないと言っています。しかし、彼がそれを聞いたとき、彼は神の前にへりくだり、そして、イスラエル人をみな集め、それを聞かせ、生活を改革するよう訴えました。神はロン・ワイヤットを導いて石の板—十戒が納められている契約の箱を発見させたとき、神が突然新しい方法を用いられたのではないということは、興味深いことです。

ヨシア王のときと全く同じように神は再び、神の律法の真の内容を忘れてしまった人々に証拠を与え、彼らが獣の刻印を拒むことができるようにしてくださっているのです。これは神が、背信の宗教に属することによって、だまされていることを悟らない神の子らに「見て、悟れ」と訴えている神の方法なのです。これはヨシアの時に起きたことに非常に類似しています。

ヨシア王の時、長い間失われていた、契約の自身を含んでいる書物が発見されたのでした。今日も、ほとんど2600年間隠されていたが、十字架上で確認されたその同じ律法が入っている契約の箱がロン・ワイヤットによって発見されたのです。人間の目から隠されていましたが、神はそれがいつもどこにあるかを知っておられました。そして世界に証として注目させるために正しい時にロン・ワイヤットが選ばれたのです。

「今あるものは、すでにあったものである。後に

あるものも、すでにあったものである。神は追いやられたものを尋ね求められる」(伝道の書 3:15)。

「イエス・キリストは、きのうも、きょうも、いつまでも変わることがない」(ヘブル 13:8)。

イエス・キリストは、いたずらに証拠を求める人には応答なさいませんでした。

- ヘロデ王—「ヘロデはイエスを見て非常に喜んだ。それは、かねてイエスのことを聞いていたので、会って見たいと長いあいだ思っていたし、またイエスが何か奇跡を行うのを見たいと望んでいたからである。それで、いろいろと質問を試みたが、イエスは何もお答えにならなかった。」ルカ 23:8,9
- 指導者に先導されていた群衆—「他人を救ったが、自分自身を救うことができない。あれがイスラエルの王なのだ。いま十字架からおりてみよう。そうしたら信じよう。」マタイ 27:42
- 「ひたすら神のみところを行おうと願い、すでに与えられた光を熱心に心に留める者はだれでも、もっと大きな光を受ける。そのような魂には、天の光に輝く星が送られて、すべての真理に彼を導くのである。」大争闘上 401
- 「神は、我々の道から困難と見えるものをすべて取り除かれることは決してありません。疑おうと欲している者たちには、その機会が与えられるであろう。信じたいと望む者は、彼らの信仰を据えるための証拠を見出すでしょう。」 4 T584
- 「サタンは、様々な疑いを提案しようと待ち構えています。しかし、あなたが信仰によって目を開くなら、信じるに足る十分な証拠を見つけるでしょう。しかし、神はすべての人から疑いの理由を除くことは決してなさいません。」 4 T232-233
- 「もし、すでに与えられた証拠を拒むならば、心を改変する神の力が見られるまでは、すべての他の証拠は無駄であります。」 4MR 362

義認と 信仰による

第三

金城 重博

黙示録 14 章 6～12 節にある「三天使の使命」、または「三重の使命」は地球歴史の最後に伝えられる最も厳粛な警告の使命である。しかし、「永遠の福音」とも言われている。警告は「福音」ではなく脅しであると考えている人がいるが、聖書は「永遠の福音」と言っている。なぜだろうか。

例えば、東京の地下鉄でかつてサリン事件があった。もし、サリンがばら撒かれて多くの死傷者を出すことが分かっている人がいるとすれば、ラッパのように明瞭な音声で、警告の叫びをあげないだろうか。大津波が襲ってくるのが確実であるとするれば、それを知っている専門家たちが声を大にして警告しなければ、どうだろうか？

聖書には、キリスト再臨前に「国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時がある」と書いてある(ダニエル 12:1)。「しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます」ともあるわけだから、きたるべき悩みの時について警告することは、「福音」ではないだろうか。

三重の使命はどれほど重要な使命だろうか？

黙示録 14:6,7

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』。

- ① 御使いが飛んでいる
- ② ひとり残らずすべての人に宣べ伝える
- ③ 永遠の福音
- ④ 大声で
- ⑤ 神の裁きの時が来た
- ⑥ 誰に従い、誰を礼拝するか—「創造主」か第三天使のいう「獣」礼拝か—全世界的対決
- ⑦ 第三天使の使命(三重の使命)は、信仰による義認そのもの

「数名の人たちから手紙で、信仰による義認の使命は第三天使の使命ですか、と尋ねられた。わたしは『それは第三天使の使命そのものです』と答えた。」 1 SM372

福音宣伝者 161:「キリストの義は、自分側のいかなる功しにもよらず、神より無償の賜物として我々に与えられている尊い教えである。神と人類の敵は、この真理が明確に示されることを喜ばない。なぜなら人々がそれを完全に受け入れるとき、彼の力が破られることを知っているからである。」

- ① サタンは喜ばない
- ② 完全に受け入れるとき
- ③ サタンの力が破られる

福音宣伝者 301:「我々の教会は、キリストにある信仰による義とそれにつながる真理についての教えが欠けているため、死につつある。」

- ① 我々の教会は死につつあるだろうか？
- ② 信仰による義についてよく話は聞いているのではないか？何が欠けているのだろうか？どの教会も、カトリックさえ、今はそれを信じているという。だから、ルーテル教会とその点で合意した。何かがおかしい。なんだろうか？

宗教改革の時には、その点でカトリックとプロテスタントは対決したはずだ。

もし、信仰による義認についての理解が他教派と同じであるなら、彼らも「第三天使の使命」を持っていることにならないだろうか？

では、第三天使の使命が信仰による義認そのものであるかどうか、検証してみよう。

「福音とは何か」：パウロはローマ書で最も組織的に説いている

1.ローマ書に説明を求めよう

福音とは何か？

- ① ローマ 1:16「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である。」
- ② 何からの救いか？

マタイ 1:21「その名をイエスと名づけなさい。彼は、おのれの民をそのもろもろの罪から救う者となるからである。」

黙示録 1:5,6「わたしたちを愛し、その血によってわたしたちを罪から解放し、わたしたちを、その父なる神のために、御国の民とし、祭司として下さったかたに、世々限りなく栄光と権力とがあるように、アメン。」

「福音」という言葉は三天使の使命の序論に「永遠の福音」として紹介されている。

福音の中に何が啓示されているか？

ローマ 1:17「神の義は、その福音の中に啓示され、信仰に始まり信仰に至らせる。これは、『信仰による義人は生きる』と書いてあるとおりである。」

神の義は神の律法に表されている。しかし、罪のゆえに人間は神の律法を守ることができない。神に栄光を帰すことができない。

ローマ 3:21「しかし今や、神の義が、律法とは別に、

しかも律法と預言者によってあかしされて現された。」

これは、律法は不必要という意味だろうか？

ローマ 3:31「すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。」

「信仰による義人は生きる」(ローマ 1:17)とはどういう意味ですか？

「とこしえの命を受ける条件は、・・・神のおきてに完全に服従すること」キリストへの道 81。

問題は、人間は神の戒めを守ることができない事実である。ローマ 3:10～12、ローマ 8:7,8

信仰による義はローマ書に最も組織的に解説されている。

福音(良きおとずれ)がある！ローマ書にどのように説かれているだろうか？

- ① ローマ書 1章～3章は、徹底的に人間の墮落と無能力、罪深さを描写している。

ローマ 3:10-12「義人はいない、ひとりもない。悟りのある人はいない、神を求める人はいない。すべての人は迷い出て、ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、ひとりもない。」

エレミヤ 13:23「エチオピヤびとはその皮膚を変えることができようか。ひょうはその斑点を変えることができようか。もしそれができるならば、悪に慣れたあなたがたも、善を行うことができる。」

- ② では、どうして人は神に受け入れられるのか？義とされるのか？

未信者も(1:18～32)神の民(2章)もみな断罪される！なぜなら、神を信じると公言しても律法を守り行える人は誰もいないからである！

● 行いの法則によるのではない！ 3:27

救いも義も同じ法則による。

エペソ 2:8「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物であ

る。」

- ① 神の側から恵みとして与えられる。
- ② 人間は、信仰によって神の賜物を受ける。

2. 無償で与えられる神の義 3:21～5章

・ 恵みの法則によって義認される。

ローマ 3:23,24 「価なしに、神の恵みによって。」

5:20 「罪の増し加わったところには、恵みもますます満ちあふれた。」

5:15～21 「さらに豊かに」「満ち溢れる」「あふれるばかりの恵み」

・ 「ゆるしと義認は一つである」 Faith and Works 103

・ 信仰の法則によって義認される。 3:22,26,27

アブラハムの例：無から有を呼び出される神を信じた。望みえないのになおも望みつつ信じた。そして神に栄光を帰した。信仰による義認である。

4:17～24 を読んでみよう。

第一天使の使命

- ・ 神の裁きの時は来た—ローマ 3:19 全世界が神の裁きに服する。
- ・ 神をおそれ—神を畏れない人間の姿 ローマ 1:18～32
- ・ 神に栄光を帰せよ—①創造主（無から有を呼び出される神）を信じるにより、神に栄光を帰す。②罪を犯したために神の栄光を受けられなくなったので、罪を犯さない生活によって、神に栄光が帰される。ローマ 3:23

義認＝ゆるし、なんとというありがたい賜物！行いによるのではなく、信じる者に無償で与えられる！

3. 罪からの解放 6章・7章

では、信仰によって赦されたからといって律法を無効にするか？「断じてそうではない！」3:31。

恵みによって赦されたからといって罪にとどまるか？「断じてそうではない！」6:1。

- ① 罪から離れる：「では、わたしたちは、なんと言おうか。恵みが増し加わるために、罪にとどまるべきであろうか」6:1。

- ローマ書の初めに何と書いてあるか？

1:5 「信仰の従順（服従）に至らせる。」

- ローマ書の終わりに何と書いてあるか？

16:25 「信仰の従順（服従）に至らせる。」

- 第三天使の使命に「信仰の従順（服従）」があるか？

黙示録 14:12 「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある。」

ローマ書：「信仰の従順（服従）」＝第三天使の使命である。

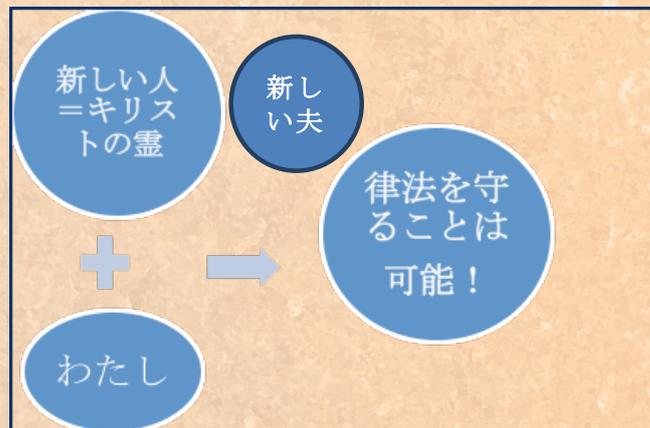
- ② 「古き人」＝生来の性質＝自我



罪から離れず、自我に死なないで、神の律法を守ることは絶対にできない！

以前の夫が死んだら再婚できる。生まれ変わらないうで、人はキリストとつながることはできない。

★ローマ書 6,7 章で「肉」は生まれつきの性質を意味している。



第二天使の使命

「バビロンは倒れた」の意味

- ★ サタンの精神＝「わたし」＝自我
(イザヤ 14:13,14)
- ★ バビロンの精神＝「わたし」ダニエル 4:30
- ★ 「私」「わたし」が人間の生来の性質である。
自我＝バビロン、が倒れなければ神の律法に服従することは絶対に不可能！
- ★ クリスマン生活に自己顕示があって良いか？
ガラテヤ 6:14「しかし、わたし自身には、わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあってはならない。」
2コリント 11:30「もし誇らねばならないのなら、わたしは自分の弱さを誇ろう。」
- ★ キリストは死んで、葬られ、復活された。バプテスマは、古き人＝自我、に死んで、葬られ、新しい人生に復活するという意味がある。これがパウロの説いた最も大事な福音であった(1コリント 15:3-5)。バプテスマとは浸礼(沈める)であり「滴礼」ではない。
- ★ この事実を信じる時、我々もキリストと共に死に、共に葬られ、共に復活する、という経験をする(ローマ 6:1-13)。これが、一度だけではない、日ごとの経験である。日毎に更なる深い悔い改め、更に新しい生活へ、と更新される。これが聖化である。
- ★ クリスマンの生活を困難にし、不幸にしている原因は、第二天使の経験の欠如、すなわち日毎に自我に死なず、自分の「意のままに」しようとするところにある。
- ★ 人間の作った宗教はみなバビロンである。自我の共同体が法王教であり、黙示録でバビロンと呼ばれる所以はここにある。
- ★ ローマ 7:24「わたしは、なんというみじめな人間なのだろう。だれが、この死のからだから、わたしを救ってくれるだろうか。」25「わたしたちの主イエス・キリストによって、神は感謝すべきかな。このようにして、わたし自身は、心では神の律法に仕えているが、肉では罪の律

法に仕えているのである。」

ローマ 8:1 「こういうわけで、今やキリスト・イエスにあり、肉に従わず霊に従って歩む者は、罪に定められることはない。」欽定訳

3. 御霊の法則によって服従 ローマ8:1～8

- ・ ローマ 8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。
- ・ 肉＝生来の罪深い性質、は神の律法を守る事に対して無力であり、神に従い得ない。

罪の肉の様で、イエスは人間として天父に服従し、律法への服従の模範を示してくださった。

- ・ わたし自身からは何一つできない。ヨハネ 5:30
- ・ 肉の生活の時には、天父に対する信仰によって服従。ヘブル 5:7,8
- ★ 信仰によって義とされた！ローマ 3:22
- ★ 霊によって義とされた。1テモテ 3:16
- ・ 我々も肉によらず霊によって服従し、律法と調和する生活をする事ができる！ローマ 8:4

第三天使の使命

- ① 獣—詩篇 73:22「わたしは愚かで悟りがなく、あなたに対しては獣のようであった。」
 - ★ 獣は自分の意のままに行動する。だから人間の王国を獣で象徴している(ダニエル書 11章:「意のままに」「ほしいままに」「心のままに」)。
 - 黙示録 14:12 「ここに、神の戒めを守り(服従)、イエスを信じる信仰(イエスの信仰-欽定訳)を持ちつづける聖徒...」
- ② ローマ 1:5 信仰の従順(服従)→
ローマ 16:25 信仰の従順(服従)
神に①無償で義認＝ゆるされた者は、②罪から離れ、③服従するようにされる。この三つは切り離せないクリスマン経験である。初めも、途中も、最後もこの経験をして、完成する。

この信仰による義認の経験は、人に大きな変化を

もたらす(大争闘下 196)。変化をもたらさないとすれば、間違った教えか、間違った経験をしている!

③ 真の信仰による義認の経験とは?

- ・ 1ヨハネ 5:3「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。」
- ・ ガラテヤ 5:6「尊いのは、愛によって働く(行う)信仰だけである。」
- ・ 詩篇 119:167「わが魂は、あなたのあかしを守ります。わたしはいたくこれを愛します。」
- ・ 詩篇 119:163「あなたのおきてを愛します。」

実に第三天使の使命(三天使の使命)は信仰による義認そのものである!

④ イエスは天の至聖所において信仰による義認の完成を求めておられる!

どういうことか?それは、日毎の信仰による義認—自我に死に、葬られ、新しい生命に復活すること—の完成である。永久的に罪が除去され、永久的に新しい生命に生き、神の律法に従う、品性の完成である。

「仲保者イエスは、彼の血を信じる信仰によって勝利したものがみな、その罪を許され、再びエデンの家郷にもどって「以前の主権」を彼とともに継ぐ者となるように、嘆願されるのである(ミカ 4:8)。…キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な許しと義認(full and complete)だけでなく、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである」大争闘下 216

黙示録 14:12「ここに、神の戒めを守り(服従)、イエスを信じる信仰(イエスの信仰-欽定訳)を持ちつづける聖徒の忍耐がある。」

1888年のメッセージは何であったのか?

「主は大いなる憐れみを持って、ワゴナーとジョーンズの二人の長老たちを通し、神の民に最も大切なメッセージを送られました。このメッセージは、全世界の罪のためのいけにえである救い主を、世界の前に、より顕著に高く掲げるためのものでした。それは神の保証人に対する信仰による義を提

示しました。このメッセージは、キリストの義を受け入れるようにと人々を招いています。キリストの義は、神のすべての掟への服従によって表されるものです。多くの人々は、イエスを見失っていました。彼らは、イエスが神であられること、イエスの功績や、人類家族へのイエスの不変の愛に注目する必要がありました。人々に豊かな賜物を分け与え、弱い人間の器にご自身の義という高価な賜物を与えるために、一切の権能がイエスの御手にゆだねられています。これこそ、神が世界に与えよと命じられたメッセージです。これが、大声で宣布されるべき第三天使のメッセージであって、神の御霊の大いなる注ぎが伴うのです。牧師と信徒への勧め上 107

アピール!

イエスの天父に対する信仰は、神の律法と完全に調和する生活をもたらす。イエスの信仰を持ち続けるには忍耐が必要である。

黙示録 13:10「ここに、聖徒たちの忍耐と信仰とがある。」

最後の迫害の時近づいている。

- ・ マタイ 10:22「またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。」

獣とその像を拝み、その刻印を受けるように強要される事件が近づいている。人間に服従するか神に服従するかが試される。その時、信仰による義認が本物か、偽の死んだ信仰かが明らかにされる。

- ・ マタイ 7:21「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである。」

「テストの時、我々の間近に迫っている。なぜなら、第三天使の大いなる叫びが、罪をおゆるしになる救い主キリストの義の啓示の中にすでに始まったからである。これはその栄光を全地に満たす天使の光の始まりである。」スタディバイブル新 595。

※教会は 1888 年のメッセージを拒んだ。後の雨 / 大いなる叫びは止められた。しかし、「定められた時」に、キリストの義=大いなる叫び、が成就する時が来る。近い将来に。



“一つの石もほかの石の上に残されず”

ハル・メイヤー 牧師
Keep The Faith Ministry

最も悲しい言葉の一つを開きましょう。マタイ 23 章 37 節です。イエス様がここにおられたら私たちに何と言われるか、考えながら読んでみてください。あなたに、私に、そして今日のご自分の教会に何と言われるのでしょうか。これはイエス様の時代の教会に語られた言葉です。当時はユダヤ人らが「神の教会」でした。神様がどのように彼らと関わるかを記されることで、神様が世の終わりの神の教会とどのように関わられるかを預言的に説明されています。

「ああ、エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、おまえにつかわされた人たちを石で打ち殺す者よ。ちょうど、めんどりが翼の下にそのひなを集めるように、わたしはおまえの子らを幾たび集めようとしたことであろう。それなのに、おまえたちは応じようとしなかった」マタイ 23:37。

人と同じ肉を取られた栄光の主キリストは、嘆き悲しみながらこの言葉をお語りになりました。彼はちょうど十字架にかけられる直前で、エルサレムに凱旋入場の途上でありました。彼はオリブ山で立ち止まり、エルサレムのために泣いておられました。彼はご自分の子らのために泣いておられたのです。彼らの背教と不品行に対して涙を流しておられました。全天はこの光景を不思議と驚きのうちに見守っていました。

このキリストの語られた言葉は今日の私たちにも当てはまると思いますか。それは今日の教会にも当てはまるのでしょうか。もちろん当てはまりません。彼は美しい町エルサレムだけでなく、その時代を超えて多くのことを見通しておられました。単に数年後だけでなく全ての世代を見通すことができになりました。

よく聞いて下さい。各時代の争闘上巻 7 ペー

ジから、「彼は、はるか未来に目を注ぎ、契約の民が、『さばくに散らばる破片のように』、各地に離散するのを見られた。エルサレムの子らの上を下ろうとしていたこの世の応報は、最後の審判の時に彼らが一滴もあまさを飲み干さなければならない怒りの杯の、ほんの一口に過ぎないことを彼はご覧になった。」

お聞きになりましたか？エルサレムの滅亡について言われたことは、特にこの世の最後の審判とこの世界に起こる最後の悩みの時について描写していたのです。キリストはこの世界の歴史全体をご覧になりました。失われる魂のことを考えた時に深い苦悩に揺り動かされました。何という悲劇、何という不幸でしょう！彼はエルサレムにおける、かつてなかった程の悩みの時をご覧になりましたが、彼はそれよりももっと大いなる悩みの時、つまり人類の恩恵期間が閉じられる時、大混乱が世界的に起こることをご覧になっていたのです。

キリストがオリブ山の上から都を見下ろした時、「彼は、滅びの天使が、長く主の住居であった都に向かって剣を上げているのを見られた（各時代の大争闘上6）」。彼の心は、ご自身の身に降りかかる人類の悲惨と罪で引き裂かれました。エルサレムは、彼が遣わされた預言者たち、また彼らを救うことの出来るイスラエルの聖なるお方を嘲り、拒んだのです。

「キリストは、不信と反逆によってかたくなになり、急速に神の刑罰を受けようとしていた世界を、エルサレムが象徴しているのを見られた（各時代の争闘上8）」。彼らは、誇りと反逆を選び、また善の代わりに悪を選びました。キリストは、その様な者達の心をご自分に引き寄せるために出来る限りのことをなさいました。しかし彼らはキリストをはねつけ、その優しい慈悲を拒絶するために出来ることはなんでもしました。今や彼らは、唯一彼らの選んだ主であるサタンが、彼らはずかしめ、打ち倒し、無慈悲に破壊するまにさせるのでした。

エルサレムの滅亡は一夜で起こったのではありません。それは長い間続いた反逆の結果でした。神は預言者たちを通して人々に警告し教え導いてきましたが、彼らは神に背を向け続けてきました。彼らは、自ら破滅の種を植えて来たのでした。神の根気強い訴えを退けて、自らの要塞を打ち壊してきました。彼らが神の忠実な者らを迫害したので彼らは、地に落ちる程になってしまいました。

言い換えると、エルサレムの街の物理的な破滅は、ただ神の教会に霊的に起こっていたことが外へ現れたものでした。彼らの都と神殿は、火で破壊されました。それはつまり幾世紀にもわたって続いてきた霊的破滅的確な象徴でした。

イスラエルは神の律法に背を向け、罪に罪を、違反に違反を積み重ねて、不服従の結果に苦しまなければならないのでした。

皆さんにお尋ねします。私たちが今日の社会で目にする人類の悲痛の潮は、イエスの時代に存在していたのと同じくらいひどいと思いませんか。恐ろしい結果が延ばされているために、罪と不服従が積もり積もっていると思いませんか。神の律法違反は、その時よりもっと悪くなっていると思いませんか？

各時代の争闘上 22 ページから引用します。

「イエスは、はるか最後の時代までをながめ、エルサレムの滅亡を招いたのと同様の欺瞞に世界が陥っているのを見られた。ユダヤ人の大きな罪は、彼らがキリストを拒んだことであった。キリスト教会の大きな罪は、天地を支配する神の統治の基礎である神の律法の拒否ということである。主の戒めは、軽べつされ、無視されるのであった。罪に束縛され、サタンの奴隷となり、第二の死に定められた無数の者が、神のおとずれの時に、真理の言葉を聞こうとしないのである。それは、何という恐ろしい盲目、なんと不思議な愚かさであろう。」

ですから、最後の時代に問題となるのは、神の律法の拒否とその戒めからの離反であります。皆さんはこれがただ社会で起こっていることだと思いにになりますか。いいえ、これはまた、教会の中でも起こっているのです。

神の律法を頑なに拒絶することにより、心は正しいことに対して頑なにになります。

キリストへの道 40 ページ：

「キリストは、いつでも私どもを罪より解放しようとしておいでになります。けれども私どもの意志を強いることは決してなさいません。もし私どもがどこまでも罪を犯し続ける結果、意志は全く悪に傾き、罪より解放されることを望まず、キリストの恵みを受け入れようとしな

いならば、いったいキリストは何をなさることができましょう。私どもはかれの愛をどうしても受けようとしないうち、自らを滅びに落とし入れるのであります。「見よ、今は恵みの時、見よ、今は救いの日である」(Ⅱ コリント6:2)。「きょう、あなたがたがみ声を聞いたなら、……心を、かたくなにしてはいけない」(ヘブル3:7,8)。

キリストの愛を拒み続けることは自分自身を滅ぼすことになるのです。私達の今日の世界は神の律法の拒否と違反をし続ける道をたどっていると思いませんか。この世界の住民は、不道徳が非常に著しくて、心に思うことや想像するものはただ邪悪なものばかりだと言われた洪水前の時代のようにになっていると思いませんか。

キリストの時代のユダヤ人に、彼らの神の報いの時が足早に接近していました。彼らは、自分たちには何の問題もなく、何か身に降りかかることはないだろうと騙されていました。なぜなら、彼らは神の選民でありました。彼らは神の民でした。彼らは自分たちは安泰だと思っていたし、悔い改めるべきだとは思っていませんでした。キリストご自身が彼らのもとに来たとき、彼らはキリストに背を向け、差し伸べられた救いを拒みしました。

今日のキリスト教世界も同じであります。家々や街、都市までも荒廃させるほどの竜巻のことを思う時、イエス・キリストのこのみ言葉を思わずにはおられなくなります。「見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう」。サイクロン、地震、突然の津波が襲った時、イエス様が今日の私たちに、これらの言葉を語っておられると思わずにはおられなくなります！「見よ、おまえたちの家は見捨てられてしまう」と。

ついに滅亡の時が来たとき、イエスのみ言葉がまた成就しました。「その石一つでもくずされないままで、他の石の上に残ることもなくなるであろう」(マルコ13:2)と。私達もその日に近づいていると思いませんか？世界と教会は出口のないところに急いで向かっています。ここかしこに、わずかに目覚めた魂があります。多くの人々が世の中で何が起きているのか関心を寄せています。暴力がはびこっています。腐敗が蔓延しています。どこを見ても病気が、悲しみが、絶望があります。

その時代のエルサレムは、要塞で見事に固められた都市でありました。固く防備がなされた、攻略できない都市だと見なされていました。その崩

壊を予告した者は誰でも、杞憂家(きゆうか)とか、ヒステリックな悲観論者と見なされたことでしょう。しかし、神のみ言葉が誤ることはありません。キリストは神殿と都市の崩壊を預言しました。それは確実に実現するはずでした。預言者ミカもまたそれを預言しました。彼の言葉を聞いてください「ヤコブの家のかしらたち、イスラエルの家のつかさたちよ、すなわち公義を憎み、すべての正しい事を曲げる者よ、これを聞け。あなたがたは血をもってシオンを建て、不義をもってエルサレムを建てた。そのかしらたちは、まいないをとってさばき、その祭司たちは価をとって教え、その預言者たちは金をとって占う。しかもなお彼らは主に寄り頼んで『主はわれわれの中におられるのではないか、だから災いはわれわれに臨むことがない』と言う」ミカ3:9-11。

私たちはこれと同じことを今日目にしています。世界は敬虔な衣をまといながら、邪悪に満ちています。そして非常に欺瞞的であります。事実、あまりにも欺瞞的なので、たいていの人々は、彼らの尊敬している霊的指導者に騙されてしまいます。

キリストの慈愛を拒否した結果、ユダヤ人国家はサタンの支配のままになりました。サタンの支配下で国家が放置される時、どのようなことが起こるとお思いになりますか？物事は非常に混乱し、危険に陥ります。邪悪な衝動が優位を占め、争いと激情が支配します。

各時代の争闘上巻 15,16 ページ:

「サタンは、人間の心の中の最も激烈で卑しい感情をよびおこした。人々は、道理をわきまえなかった。彼らは理性を超えた衝動と無分別な激しい怒りに支配された。彼らは、悪魔的残酷さをあらわしてきた。家庭においても国家においても、上流階級においても下層階級においても一様に、疑い、ねたみ、憎しみ、争闘、反逆、殺人などが行われた。どこも安全ではなかった。

友人も親族も互いに裏切り合った。親は子供を殺し、子供は親を殺した。国民の指導者たちは、自分自身を統御する力がなかった。押さえきれない感情が彼らを暴君にした。ユダヤ人は、神の罪なきみ子を罪に定めるために、偽証を受け入れたのであった。そして今、偽証が、彼ら自身の生命を脅かしていた。彼らは、その

行動によって、長い間、『我らが前にイスラエルの聖者をあらしむるなかれ』と言ってきた（イザヤ書30:11文語訳）。今、彼らの願いはかなえられた。彼らはもう神を恐れなくなった。サタンが、国家のかしらとなった。そして、政治と宗教の最高の権威者たちは、彼の支配下にあった」。

このようなことが、終わりのときに起ると思いますか？サタンが宗教的、また社会的権威を握るようになるのでしょうか。私たちは、このように人々から大いに尊敬されている人たちが、キリストに忠実である者たちをしいたげ、滅ぼそうとするとき、少しも驚くべきではありません。

それは過越の祭りの時でした。何百万というユダヤ人で街はすし詰め状態になっていました。一度ローマの兵士らが街を封鎖すると、全市民が閉じ込められました。争い合っている政治的派閥が都の中でそれぞれの指導者を持っていて、ギャングの群れと強盗らが乱暴に自分たちの力で人々を支配しようと主張し合っていました。

ヨセフス（ユダヤ人の著名な歴史家）が何と語っているか聞いてください。

「さて市内には3つの異なった危険な派閥がありました。最も大きなある一派が… 民衆を略奪しました。… そしてトウモロコシやその他すべての食料がいっぱいある家々に火をつけました。他の党派も同じことをしました。



結果的に時が経って、神殿の周りのすべての場所は、焼け野原になりました。両派閥の争いによって、長年包囲されても十分なほどのトウモロコシは殆ど焼かれました」フラビウス・ヨセフスの全集第5巻, 第1章。

エルサレムは実際は、自分たちの凶暴な手によって崩壊したのです。そしてそれは食物庫をも焼き、都市全体に飢きんの被害をもたらしました。しかしそれは事の始まりにしか過ぎませんでした。全ての人々はその隣り人を恐れて住むようになっていました。続けてヨセフスから読みます。

「さて都は四方八方が戦争状態になりました。これらの邪悪で危険な群集は、まるで引き裂かれた大きな体のようなものでした。老人たちも女たちも、市

内でのあまりの悲惨さから救われるために、かえってローマ兵と戦ってこの悲惨から逃れることを願っていました。市民たちは恐ろしいほどの恐怖のもとにありました。このようなパニック状態から、彼らは逃れることが出来ませんでした。なぜなら、四方に警備たちが立っていて、しかも彼らは、互いに憎み合っている強盗の頭たちでした。それでいて、彼らはローマ人と和平をし、逃れようとする者たちを殺すことに関しては賛同していました」フラビウス・ヨセフスの全集, 第5巻, 第1章。

皆さん、これは何を言わんとしているのでしょうか。今日で言えば、ラテンアメリカで麻薬をめぐって、毎年無意味に何千という人たちが殺されているようなものでした。あるいは、ギャングたちが互いに殺し合っているようなものでした。エルサレムのギャングたちは無垢の市民たちが逃げるのを許しませんでした。都を出るようなわずかな疑いがあれば、すぐ殺されるのです。これは、違法な暗殺そのものでした。今日、我々は麻薬戦争と売春界だけでなく、政府自体にそういうことを見ているのではないのでしょうか。

悩みの時が来て、聖霊が悪人から最終的に取り除かれる時、人々は、自分たちだけを守ろうとして、自分たちの利益のみを考えるようになるでしょう。国家の最高の指導者たちにその例を見ましょう。それゆえに彼らは、なんの躊躇もなく他人を死に値する者として殺すでしょう。

そのような状況で死に値するという定義は非常に浅く、表面的なものになるでしょう。小さい事柄で懐疑がかかると死刑宣告が下されることがあるでしょう。西洋世界やハイテク世界の主な街々で戒厳状態になると、犯罪とか死刑の定義は非常に浅く広く、非常に矛盾した状態になるでしょう。「巷の規則」が法律の規則を打ち壊すでしょう。市民の不安と危機を防ぐはずの軍隊の権力は、法律と秩序を取り戻そうとするでしょうが、殆ど何もできない状態になるでしょう。彼らはすでに、このことの為に備えているのです。

幸いなことに、キリストに忠実である全ての者は、エルサレムから逃れることが出来るのです。ちょっとこのことを考えて下さい。イエス様はご自分に従う者たちにローマ兵がエルサレムを囲むのを見たならば、直ちに逃げるようにとっておられました。彼らは待つてはなりません。ユダヤ人は降伏寸前にまで至っていました。開門するという穏健派の約束に従って、ケスティウスは北門まで軍をすすめました。ここで思わぬ事態



が起きました。「まったくなんの理由もなく」彼は軍を撤退させたのでした。ユダヤ人たちは、退却するローマの軍を追撃し始めた時にクリスチャンに絶好の時が訪れました。イエスが言われたとおりに一斉に市外に脱出したのでした。ケスティウスと戦うことに集中してユダヤ人たちは内戦などすることが出来ませんでした。したがって、キリスト者達にとって都を去る非常に短い期間があったのです。彼らは自分たちの宝物、衣類、その他の所有物を取りに行く時間さえありませんでした。彼らは、全てを後にして、出ていかなければなりませんでした。

これは、終わりの時代にも起こり得ると思いますか？もちろんです。その時、都市に住んでいたら、あなたがそこを脱出するには短期間しかないかもしれません。もし、あなたが聖霊の導きに目をとめているなら、聖霊は、都市を出る時を教えてください。もし、あなたがロトのようにもたもたしていると、チャンスは閉ざされ、脱出の機会を失ってしまうかもしれません。熱心に祈ってください。神が道を開いてくださるように、喜んで逃げることができるようお願いしてください。窮地に追い込まれ、もはや聖霊の抑制がなくなると、人々は、最も残忍なことをするようになるでしょう。みなさん、残念なことですが、これはあなたの大都市にこれから起こることなのです。

また、都は、内側からも外側からも戒厳状態に置かれました。逃亡しようとしていると疑われる者は、他の残された人々に恐怖を与えるという理由で、撃ち殺されました。ヨセフスは、彼らは「どんな拷問も野蛮な方法も惜しみなく使った」と言っています。拷問は日常茶飯事でした。今日、都市は、誰も出入りできないように、容易に戒厳状態にすることができるのです。これは、神が私たちに都会を出るようにとっておられる理由の一つです。そうすることによって、あなたは混乱や畏から逃

れられるのです。エルサレムでは、数え切れないほどの死体が街路に積み重ねられ、敵軍に踏みつけられる有様でした。

各時代の争闘上 16,17 ページ:

「神聖な神殿でさえ、彼らの恐ろしい残忍さをとどめることができなかった。礼拝者が祭壇の前で殺され、聖所は死体によって汚された。しかし、この凶悪な行為の扇動者たちは、その盲目で神をないがしろにした思い上がりから、エルサレムは神ご自身の都であるから、滅亡する恐れはないと公言していた。彼らは権力を確保するために、にせ預言者を買収して、ローマの軍隊が神殿を包囲している時でさえ、神の救いを待つべきであると人々に言わせた。群衆は、至高者であられる神が敵を滅ぼすために介入なさることを、最後まで信じていた。しかし、イスラエルは、神の保護を退けてしまっていたから、今、なんの防備もなかった。不幸なエルサレムよ。内紛に裂かれ、同志の手で殺害された子らの血が、都の通りを赤く染め、その上異邦人の軍隊が要塞(ようさい)を破壊し、兵士たちを殺害したのである」。

エルサレムに起こったことは、終わりの時代に起こることの預言的描写です。食料、燃料、その他日常必需品が不足するとき、どんな混乱と流血沙汰が起こるか想像できますか？人々はパニック状態になるでしょう。暴力団と強盗たちはそこに住む人々の物を略奪するでしょう。そして人々の心は恐怖におののくでしょう。「人々は世界に起ろうとする事を思い、恐怖と不安で気絶するであろう。もろもろの天体が揺り動かされるからである」ルカ 21:26。

今は、食べ物豊富な国々の都市でも、餓死が襲う時が来るでしょう。「神のさばきが地上に臨むとき、悪人たちは、飢えと渇きで死ぬであろう。天使たちは、正しい者たちに食べ物と水を備えるのである」(預言の霊 4 巻 446)。ちょうど昔のエルサレムのように、都市の人々は、飢えと渇きで死ぬでしょう。そこでは食べ物を得ることができないからです。燃料不足やその他の理由で運送不能になると、人々は、スーパーに行って食べ物を買うことはできなくなるでしょう。今日も見られる暴動は、やがて起こるであろうことに比べると比較的静かなものです。

ティトゥスが都を包囲したとき、飢饉に襲われ

ました。ヨセフスの資料から読んでみましょう。「暴力団や強盗たちの狂気は、同時にききんを増加させ、この悲惨は日に日に増えていった。公の場所でも、トウモロコシが姿を消すと、泥棒たちは、家々にやってきて彼らを拷問した。何も持っていないと否定し、物を見つけないことができなければ、拷問はますますひどくなり、もっと奥に隠し持っているのではないかと疑った」フラビウス・ヨセフス全集 第5巻,10章。

ヨセフス曰く「最後の一食を売り渡す者が多くいた。富んでいる者なら、小麦、貧しい者たちは、大麦を。そうしてから、彼らは家の奥まったところに隠し持っていたトウモロコシを食べた。ある者は、あまりのひもじさに粉にしなくて食べ、ある者は必要に応じて恐る恐る焼いて食べた。食卓なんていうものはなく、火からもぎ取るように非常に急いで食べた」。

「さて、最も悲惨なこと。我々の目に涙をもたらす光景。強い者は必要以上に食べ、弱い者は食べるものがなくて嘆いている。…父親が食べているとき、子供たちが父親の口から一片を引きちぎる。母親も子供から奪う。最もかわいい者たちが彼らの手の内で死んでいく。自らの生命を保つためには最後の一滴まで絞り取ることを恥ともしない。…暴力団らが閉じられている家を見たら、この家はいくらかの食べ物を持っているしるしであった。そこで彼らは戸を壊し入り、ほとんどのどに飲み落そうとする一口を力づくで奪う。年寄りが食べ物を持っていると叩かれ、女が持っている食べ物を隠そうとすると、髪の毛をちぎられ、老人であろうが、赤子であろうが、何のあわれみも示されなかった」フラビウス・ヨセフス全集 第5巻,10章。

「人々は、非常な飢えのために、帯皮やサンダル、また盾のおおいをかんだりした」大争闘上 19。

みなさん、想像できますか。これらのあわれな魂に恐ろしい災いが下ったのです。それは、彼らの神への不服従と神の律法を軽視することに起因していました。聖霊が人間から取り去られると何もかも止めることができないように、人のなすがままにされるでしょう。人間の生命は無意味なものになってしまいます。

「これらの人々は、野生の植物や薬草を集めるために、夜の間に街をしのび出てローマの番兵のい

るところまで近づいて行った。敵に気づかれないように近づき、彼らが持っているものをひったくり、持ち帰った。…しばしば彼らから慈悲を乞うこともあったが…。命が助かったことよりも、わずかなパンであっても、少しばかり食べるものにあずかったことを喜んだ」フラビウス・ヨセフス全集 第5巻,10章。

「悩みの時の物質的 necessary のための準備をすることは、聖書に反することであることを、主は、繰り返しわたしに示された。もし聖徒たちが、自分たちのところ、または畑に、食糧を貯えていたりしても、もし国に戦争、ききん、疫病が起これば、それは暴徒たちに奪い去られ、他人が畑の作物を刈るようになることを、わたしは見た」Maranatha 181。

都市で食べ物を得ることができない人々は、郊外にあるいは、田舎で菜園をしている人たちから食べ物を盗みにやってくるでしょう。ですから、都市からある程度離れたところに住む方が良いでしょう。

ティトウスは食べ物を探そうと都を出てくる者を逮捕して、城外でたくさんの人々をはりつけにしました。毎日、500人以上のユダヤ人が逮捕され、はりつけにされました。あまりにもたくさんの十字架が立ったため、その間を歩くことができないほどでありました。もう十字架が足りなくなるほど立てられたのでした。

イエスがピラトの法廷におられたとき、ユダヤ人らがピラトにイエスを十字架につけよと要求したことを覚えていますか？ピラトは、罪のないキリストの血にかかわりたくないと言ったとき、彼らは何と言いましたか？「彼の血は、我々と我々の子らの上にかかってもいい」と言いました。今やその悲惨を彼らは実として刈り取り、都の外で幾千の人々が磔刑にされたのです。何百万という人々が過ぎ越し節のために都に集まっていました。みんな食べ物を探し求めて死にもの狂いになっていました。

ある者たちは、自分たちの子供たちを殺して食べるというほどの窮地に陥っていました。子供たちも親たちにそうしたに違いありません。このことをエレミヤは預言していました。「わが民の娘の滅びる時には情深い女たちさえも、手ずから自分の子どもを煮て、それを食物とした」哀歌 4:10。

1400年前にモーセによって預言されたことが成

就したのです。「またあなたがたのうちのやさしい、柔和な女、すなわち柔和で、やさしく、足の裏を土に付けようともしない者でも、自分のふところの夫や、むすこ、娘にもかくして、自分の足の間からでる後産や、自分の産む子をひそかに食べるであろう。敵があなたの町々を囲み、激しく攻めなやまして、すべての物が欠乏するからである」申命記 28:56,57。

ある者たちは都から逃げ出し、和を求めてローマ兵たちのところに行きました。エルサレムは金銀に満ちていましたので、彼らは金塊を飲み込んでお腹に持っていました。彼らは後にそれを便から集めてそれで食物を買い、生き延びようとしたのです。しかし、彼らがローマ軍の兵營に保護を求めたとき、兵隊たちは彼らのお腹を切って金を持っているかを調べ、そのまま死なせたのです。都においては、金は価値がないばかりか、逃亡を試みる人たちには滅びの原因にもなったのです。

聖書が金銀について言っていることを思い出しませんか？ヤコブ 5 章に、それは、無価値なものになる、かえってあなたの罪を責めるものとなると言っています。最後の時に、大混乱がおきれば、富はあなたを救わないのです。法律の規則が暴動によって破られ、無法状態が支配します。そうすると、家も、土地も、所有物も銀行口座も、あなたを助けることはできません。ただ略奪されるだけです。

経済が破綻すると、争いと騒動と流血沙汰が大都会に見られるようになるでしょう。そのような時、あなたは自分自身を保護するためにどうされますか？神だけに唯一の望みがあります。警察、政府、あなたの経済に頼ることはできません。あなたはあなた自身の知恵、銃あるいは武装にさえ頼ることはできません。神だけがあなたの保護者でなければなりません。

詩篇 91 篇に神の約束があります：

「いと高き者のもとにある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人は主に言うであろう、『わが避け所、わが城、わが信頼しまつるわが神』と。主はあなたをかりゅうどのわなと、恐ろしい疫病から助け出されるからである。主はその羽をもって、あなたをおおわれる。あなたはその翼の下に避け所を得るであろう。そのまことは大盾、また小盾である」詩篇 91:1-4。

みなさん、この悲惨な光景は、この地球の大都

市にもまもなくやってきます。食物や飲み物が手に入らないので飢饉で苦しみ、彼らの口は渴ききってしまうでしょう。エルサレムではどこでも死体からの悪臭で満ち、ギャングたちでさえ我慢することができませんでした。彼らは死体は国家の資金で埋葬されるべきであると強く主張しました。しかし、あまりに多くの死体があったので、そうすることはできませんでした。それで、何千もの死体が、城壁の上に運ばれて、そして下の谷間に落とされました。

ティトウスは、それらの谷に沿って巡回したとき、あたりは死体で満ち、みな腐敗しているのを見て、うなり声をあげました。彼は手を天に伸べ、『これは私ではなく、神がなさったことだ』と叫びました。ティトウスは、ユダヤ人が非常に弱りきって出てきて助けを求めるのを見て、都の明け渡しは時間の問題だと悟りました。

「エルサレムの滅亡に関するキリストの預言はみな、文字どおり成就した。ユダヤ人は、『あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられるであろう』というキリストの警告の言葉が事実であることを、身をもって知った（マタイ 7:2）。

災害と滅亡を予告するしるしと不思議があらわれた。真夜中に、神殿と祭壇の上に異様な光が輝いた。戦いのために戦車や勇士たちが集結するのが、日没の時雲の上に描き出された。夜間、聖所で奉仕する祭司たちは、不思議な物音に驚かされた。地が震え、『われわれはここを去ろう』と大勢の声が叫ぶのが聞こえた。20 人がかりでもしめられないほど重く、しかも堅い敷石に深く打ち込まれた鉄のかんぬきで閉じられた東の門の扉（とびら）がだれもいないのに、夜半に開かれた。

また、7 年の間、1 人の男がエルサレムの町をあちこちとへめぐって、都に下る災いについて叫びつづけた。彼は、昼も夜も、激しい悲しみの歌をうたった。『東からの声。西からの声。四方からの声。エルサレムを責め、神殿を責める声。新郎と新婦を責める声。全国民を責める声。』この不思議な男は投獄されて、きびしく罰せられたが、一言もつぶやきの言葉をもらさなかった。彼は、侮辱とののしりに対して、『エルサレムは、わざわざいだ、わざわざいだ。』『エルサレムの住民はわざわざいだ、わざわざいだ』と答えるだけであった。彼の警告の叫びは、彼が自分の予告したその包囲の中で殺されるまでやまなかった」各時代の争闘 16,17 ページ。

「ユダヤの指導者たちの無闇な頑強さと、城内で行われた憎むべき犯罪とが、ローマ人の恐怖と激怒をあおり、ティトウスはついに、神殿を襲ってこれを占領することをきめた。しかし彼は、できることならば神殿を破壊から守ろうとした。けれども彼の命令は無視された。彼が夜、天幕に帰ったあとで、ユダヤ人は、神殿から城外に出て、敵の兵隊を攻撃した。交戦中、1人の兵士が柱廊のすきまから中へたいまつを投げ込んだ。たちまち、神殿の回りの杉材のへやは火に包まれた。ティトウスは將軍や兵隊をつれてその場に行き、火を消すように兵隊たちに命じた。しかし、その命令は顧みられなかった。怒り狂った兵隊たちは、神殿に隣接したへやにたいまつを投げ込み、そこに避難していた多くの者を剣にかけて殺した。血が神殿の階段を川のように流れた。幾千というユダヤ人が死んだ。戦いの物音に混じって、『イカボデ』一栄光は去ったと叫ぶ声が聞こえた」各時代の争闘上 21 ページ。

聖なる都と神殿の破滅についての何という恐ろしい描写でしょう！人類の恩恵期間が終了して後、聖霊は、幾百万の人々のパッション＝激情を抑制することはもうしません。これは、そのとき世界に起こることを描写しているのです。

ティトウスは、神殿を救うことを二回試みましたが無駄でした。彼らの激怒と憤激は限度を知りませんでした。

「それは、ローマ軍にとって恐るべき光景であった。では、ユダヤ人にとってはどうであったか。全市を見おろす山頂全体が噴火山のように燃え上がった。建造物は次々と大音響を立てて倒れ、火の海にのまれた。杉ぶきの屋根は一面の火と変わり、金色の尖塔は赤い火の柱のように輝いた。門塔は炎と煙を高く吹き上げた。近くの山々は火に照りはえ、黒い人影が恐怖と不安にかられつつ、滅亡のさまをながめていた。都の城壁と高台のほうにも、絶望に青ざめた人々や、無益なふくしゅうの念に顔をしかめた人々が群がっていた。走り回るローマの兵隊の叫び声や、炎の中で倒れる反乱兵たちのうめき声が、猛火のうなりと材木の落下する大音響に混じって聞こえた。高台の人々の叫び声が山々にこだまし、城壁の回り一面に、泣き叫ぶ声と嘆き悲しむ声が満ちた。飢えて死にひんしている人々は、わずかに残った力をふりしぼって、苦悩と悲痛の叫びをあげた。」

「城内の殺害は、城外の光景よりいっそう悲惨な

ものであった。男も女も、老いも若きも、反乱兵も祭司も、戦った者もあわれみを請うた者も、みな差別なく殺害された。殺された者の数は、殺害者の数を上回った。軍隊は死者の山をよじのぼって、絶滅の仕事が続けねばならなかった」ユダヤ人の歴史、ヘンリー・ハート・ミルマン 16（各時代の争闘 22-24 ページに引用）。

「天使に関する真実」241 頁に驚くべき記述があります：「神の天使たちは、破壊の働きをするために送られた。（神殿の）その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう」。

「神殿が破壊された後、まもなく、全市がローマ軍の手に落ちた。ユダヤの將軍たちは難攻不落の要塞を放棄したので、ティトウスがそこに来た時には、だれも残っていなかった。彼はそれを見て驚き、これを彼の手にも与えたのは神であると言った。というのは、どんなに強力な兵器でも、この巨大な要塞の胸壁を打ち破ることはできなかったからである。都も神殿もともに完全に破壊され、神殿の跡は、『畑のように耕され』た（エレミヤ26:18）。包囲とその後の虐殺によって死んだ者は百万人以上であった。生存者は、捕虜として連れていかれたり、奴隷に売られたり、勝利者の凱旋（がいせん）を飾るためにローマへ引かれて行ったりした。また円形劇場で野獣の餌食になった者もあれば、流浪の民として世界中にちらばった者たちもいた」各時代の争闘上 24 ページ。

みなさん、私はこの退廃した都市の描写を読むとき、魂に対する重荷を感じざるを得ません。なんという天の神の大いなる忍耐でしょう。罪人に、国家に、教会に、悔い改める時間を与えるために、神は愛と憐みのうちにさばきを延ばしておられるのです。勝ち取らなければならない魂があまりにも多くいます。世界的にこれと似たような惨事が展開されようとしています。残された時はあまりありません。

「しかし、エルサレムに下った刑罰に関する救い主の預言は、もう1つの成就を見なければならぬ。あの恐ろしいエルサレム滅亡も、そのできごとのほんのかすかな影にしからざるべきである」同上。

このことについて考えてみてください。エルサレムの崩壊は残酷極まりないものでしたが、人類の恩恵期間が終了した後起こることと比べると、ほんの影にしか過ぎないというのです。ああ、私たちは神の保護が必要です。絶えず神の御臨在を必要とします。

未来に関してこう書かれています：

「すなわち、われわれは、選ばれた都の滅亡のなかに、神の憐れみを拒み、神の律法をふみにじってきた世界の運命を見るのである。この地上で、幾世紀の永きにわたって罪を犯し続けてきた悲惨な人類の歴史は、まことに暗いものである。それを考える時、だれしも心痛み、気はなえてしまう。神の権威を拒否する結果は、実に恐ろしいことである。しかし、さらに暗い光景が未来に関する啓示のなかに示されている。すなわち、混乱、争闘、革命、『騒々しい声と血まみれの衣を持った戦士の戦い』（イザヤ9:5・英語訳）といった過去の歴史も、神の霊の抑制力が悪人たちから全く取り除かれ、人間の欲情とサタンの怒りを止めるものが何もなくなるその日の恐怖と比べる時、ものの数ではないのである。その時、世界は、これまでかつてなかったほどに、サタンの支配の結果を見るのである」各時代の争闘上26ページ。

友よ、「かつてなかったほどの悩みの時」（ダニエル12:1）にはこのような光景をまた見ることになるでしょう。

「人は、高価な建物を建て幾百万の金を投資し続けます。建築術の美しさを追求し、堅固に建てるために特別な注意が払われる。しかし、主はわたしに示されました。異常なほどの堅固さと高価さを顕示するにもかかわらず、これらの建造物は、エルサレム神殿と同じ運命をたどるでしょう。あの巨大な建造物が崩壊したのです」
Manuscript Releases, Vol. 21, page 66.

やがて来る大都市の崩壊が、エルサレムが不義のために滅亡したことによって予表されています。神殿の崩壊の意味するところは何でしょうか？

マタイ24章でイエスは彼の弟子たちの質問に答えました。神殿の方に振り返って、即座に答えました。最初の節です。「イエスが神殿から出て行くこととしておられると、弟子たちは近寄ってきて、神殿の建物にイエスの注意を促した」。

つまり、イエスがついにその当時のご自分の教会に背を向けられたことを弟子たちは感じました。彼らは、このことをユダヤ人がキリストを拒否した結果であると感じていました。彼らは非常に心配していました。彼らは、神殿建造物なしでは教会を考えられなかったのです。ユダヤ人は、本当にそれが重要な神学的「真理」であると教えていたのです。ユダヤの若者は神殿の教義的重要性を幼児期から深層心理に埋め込まれていました。弟子たちでさえも、神殿は全組織のシステムとヒエラルキー（階級制度）の象徴であると考えていたのです。神殿は救いに必要でないとか、神の教会に必要でないという提案は、不忠実なもので、反逆だとみなされていたのです。

どうしてイエスが神殿に背を向けられることがあり得るのでしょうか？そうすることは神の教会に背を向けることではないのでしょうか？これは彼らを悩ましたことでしょうか。なぜなら、救われるためには、神殿とその階級制度と交わりの中いなければならぬと考えていたからです。しかし、イエスは神殿なしの新しい教会をスタートさせようとしていました。新しい教会は、単純な組織形態で、以前のような大殿堂を含まないものでした。それは、ユダヤ構造がついに崩壊してしまったように、聖霊の働きの邪魔になってはならなかったのです。

弟子たちは、神殿建築の素晴らしさにイエスの目を向けさせ、その聖なる建物が歴史的に、霊的にそして教理的に彼らにとってどれほど大事であるかを示しました。しかし、イエスは、悲しみながらお答えになりました。「あなたがたは、これらすべてのものを見ないか。よく言うておく。その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう」マタイ24:2。

弟子たちにとって、これはショッキングな言葉でした！これは、イエスばかりでなく、彼ら自身にもどんなに多くの問題をもたらすかを知っていました。イエスは、ユダヤ人が偶像化していた聖なる神殿を汚すことになるのでした。これは公然と言われたことでしたから、これ以上質問をしたら、イエスがもっとどんな悪いことを言われるかと思って、弟子たちは質問をしませんでした。が、彼らはもっと知りたがっていました。「またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、『どうぞお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終わりには、どんな前兆がありますか』」マタイ24:3。

彼らは、二つの質問をしていることに留意してください。一つは、教会または神殿についてです。もう一つは、世の終わりのことについてです。キリストは、弟子たちが望んでいたように、二つのことを区別しないで、一つの答えとなさいました。エルサレムの滅亡は、人類の恩恵期間終了後に何が起こるかを明示していたのでした。教会の構造は破壊されます。大都市も同じです。

世界的な日曜休業令の迫害のもとで、神の最後の教会が、その組織、ヒエラルキー、その複合体と制度とその働きを進めることは、非常に困難になってきます。そのような構造は失われるようです。黙示録 13:16,17にあるように、新世界政府や新しい経済的規定のもとでは存続はできないでしょう。しかし、神の教会は倒れはしないのです。それは決して破壊されません。常に教会を構成してきた忠実な者たちは、聖霊に導かれて、一致して神の最後の働きをするからです。それは、みんなの同意をもってなされる規則や教会指針によって人工的にもたらされる一致では決してありません。聖霊が真の一致をもたらします。聖霊が組織し、働き、働き人を統合し、聖霊の力、後の雨の力で奇跡的な働きがなされるでしょう。

エルサレム滅亡の物語に、私たちは二つの局面を見ます。この世と国々の都市の崩壊を表す都の崩壊とそして教会組織の崩壊を表す神殿の崩壊です。教会はその目的を果たすための組織、道具として用いられている限り便利でありましたが、目的を妨げることもあり得るのです。

歴史を通して、私たちは、色々な形の迫害のもとにあった時に、教会の組織にいろいろなことが起こったことを覚えていて下さい。東欧とソビエト共産主義、中国共産主義、強力なイスラム国など。多くの場合、イエスに忠実な者たちは、「地下」で働きを続け、秘密裏に教会は設立されていきました。地上最後の働きもそうなるでしょう。

そのことが起こったときに驚くことのないように皆さんに申し上げます。皆さんが今、全的にキリストに頼るように、心の備えができるように、そしてその時には、それが自然なこととなるまで備えたいものです。あまりにも多くの人が、現実的にキリストに全く頼ることを学ばなければならない時に、人間的な組織や肉の腕に頼っています。キリストがそうであられたように、私の言葉も容易に誤解されやすく、誤り伝えられやすいものです。しかし私は、聖書の預言から見えてくることを説明しようと努力してきました。ユダヤ人教会の組織の破壊を最終時代に

に適用したのはイエス様ご自身でした。

撤退と帰還をする兵士を含む、ローマ兵によるエルサレムの都の包囲は、1888年頃に発布されようとした日曜休業令と、また最終時代の日曜休業令を予見しています。昔、エルサレムでそうであったように、私たちはそれら2つの実体の「包囲攻撃」の期間の時代に生きているのです。

日曜休業令は神のすべての律法を守る民、特に第七日安息日の戒めを守る民に突然襲いかかるものです。神殿は神の教会の不正行為、邪悪と罪を悔い改めない強情さのゆえに破壊されました。最終時代にも、教会の組織はキリストとサタンとの戦いにおいて、同じ理由で破壊されるでしょう。

各時代の争闘は語っています：「しかし、その日、エルサレムの滅亡の時と同じように、生命の書に記されたすべての神の民は救われる（イザヤ 4:3）。キリストは忠実な者を集めるためにもう一度来ると言われた。『そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう。また、彼は大いなるラッパの音と共に御使たちをつかわして、天のはてからはてに至るまで、四方からその選民を呼び集めるであろう』（マタイ 24:30,31）」（大争闘上 26）。それは何と素晴らしい日になることでしょう。

「今、世界は、ユダヤ人がエルサレムに関する救い主の警告を受け入れなかったのと同様に、現代のためのメッセージを信じようとしないのである」各時代の争闘上巻27ページ。

みなさん、エルサレム崩壊の話は単なる作り話だと思いますか？今日に対する預言的意味はないと思いますか？ああ、みなさん、もう一度考えてみてください。神は目的も無くそのストーリーをそこに置かれたのではありません。彼はそれをわたしたちの益になるように、また警告のため、そうすることによって、私たちが心と頭の中で神と一つになり、備えることが出来、完全に、神の印を私たちの額に押すことができるためです。イエスの印が私たちに必要ではないでしょうか。私には必要です。あなたにも必要であると私は分かっています。「かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をされる者は皆救われます」（ダニエル 12:1）という時のために、備えができますように！

FootPrints

あしあと

「あしあと」という詩があります。今や、世界中のクリスチャンの間で親しまれています。あるときは悩める友人への手紙に書き記され、あるときはキリスト教会の集会で読み上げられ、人生に疲れて重荷に押しつぶされそうになっている人々を励ましてきました。ところが、詩が知られるようになった初めのころは、だれがこの詩を書いたのか、詳しいことは何もわかっていませんでした。しかし90年代初めに、カナダのクリスチャン女性が「あしあと」の作者であることが分かり、この詩の背景にある感動的な物語が日本にも伝わってきたのです。

この詩を生んだのは、神を信頼する心でした。父親に虐待された過去と殺人の前科を持つ男性と、育ちの良い女性が結婚を決意するまでにあった戸惑いの心は、神への信頼によって平安へと導かれたのでした。その信頼の中から、この詩は生まれました。

この美しい詩「あしあと」の作者はマーガレット・パワーズさん。1964年、ご主人のポールさんにプロポーズされた日に「あしあと」は生まれました。

その日、カナダ・キングストンのエコー湖のなぎさを歩いていた二人の心は、結婚のことでいっぱいでした。数時間前に、突然プロポーズされたばかりでした。ポールさんはキリスト教の伝道者で、マーガレットさんは教師でした。二人はともにクリスチャンで結婚生活への夢もふくらんでいましたが、実は、心の奥底には不安があったのです。育ってきた環境があまりにも違う二人が、果たして一つにな

れるのだろうか。マーガレットさんの両親は、ポールさんのいまわしい過去を知っても賛成してくれるのだろうか。

殺人の前科を持った男

マーガレットさんは、安らぎのある家庭環境で育ちました。一方、ポールさんは父親からひどい虐待を受けて育ったのです。ごみ処理場の裏に住み、働かない父親に5歳で万引きを教えられました。7歳の冬、父親の不注意で母親が凍死した朝、父親が母をごみに埋めてしまうのではないかと怖くなり大声で泣くと、泣き声がうるさいと父親から暴力を受け、手首や肋骨、鼻を骨折、歯が何本も折れました。

成長しギャングの一員になったポールさんは12歳の時、盗みに入った先で婦人を射殺。少年院を転々とし、院内で聖書をもらおうとその場で破り捨てたのです。

一組の足跡は愛のしるし

けれど、ポールさんは、その後、刑務所の職業訓練学校で前向きに学ぶようになり、出所後、老齡のクリスチャン夫婦宅に下宿したことでクリスチャンになりました。イエス・キリストが自分の罪のために十字架にかかったと知った時、母親が死んだ7歳の朝以来、初めて涙を流しました。



そして1964年のあの日、エコー湖のなぎさを歩きながら将来を真剣に語り合っていた二人がいました。そろそろ戻ろうと砂浜を折り返すと、二人の足跡が波に消されて一人分しか残っていないのです。それを見て、神が祝福してくれないことの暗示かと不安がるマーガレットさんに、ポールさんは「そうじゃない。二人は一つになって人生を歩いて行けるんだ」と励ましたのでした。それでもマーガレットさんは不安です。「二人で処理できないような困難がやってきたらどうなるの」と聞きます。ポールさんは答えました。「その時こそ主が僕たち二人を背負い、抱いてくださる時だ。主に対する信仰と信頼を持ち続ける限りはね」。

詩を書くのが好きだったマーガレットさんは、その夜、明け方近くまでかかって、なぎさでの出来事を詩に書きました。まるで神様を交えて三人で歩いていたような美しい瞬間を、書き留めておきたかったのです。完成した詩をポールさんに見せた時には、なぎさでの出来事と、詩を書きあげた喜びと感謝で、結婚への不安はなくなっていたのです。

その後、人前で聖書を語ることの多いポールさん

は、機会あるごとに「あしあと」を紹介。それが、この詩が世界中に広がるきっかけとなったのです。

苦しい時にこそ信頼を

1989年の夏、ピクニックに訪れた州立公園で、夫妻はひどい事故に遭いました。娘は首を骨折し内臓の損傷がひどく、ポールさんは心臓発作で集中治療室へ。ポールさんを助けようとしたマーガレットさんも腕を骨折。そのとき、病室を訪れ回復を祈ってくれたクリスチャン看護婦が、「作者が分からないんですが」と贈ってくれたのが「あしあと」だった。

「夫と娘は病院のベッドで、私の腕にはギブス。私たちの人生にかげりが覆っているようでしたが、ポールと娘は奇跡的に生きていました。私は過去の経験から、つらい時期には主が私たちを背負って歩いてくださるのを知っていました。これまでも背負ってくださいましたし、今も、私たちを背負って歩いてくださっているのです」。それは、エコー湖のなぎさから25年、世界中で人々を励ましてきた詩が、改めて自分の元に届き、大きな慰めを受けた瞬間だったのです。

「夫と娘は病院のベッドで、私の腕にはギブス。私たちの人生にかげりが覆っているようでしたが、ポールと娘は奇跡的に生きていました。私は過去の経験から、つらい時期には主が私たちを背負って歩いてくださるのを知っていました。これまでも背負ってくださいましたし、今も、私たちを背負って歩いてくださっているのです」。それは、エコー湖のなぎさから25年、世界中で人々を励ましてきた詩が、改めて自分の元に届き、大きな慰めを受けた瞬間だったのです。

「あしあと」

ある夜、私は夢を見た。私は、主とともに、なぎさを歩いていた。

暗い夜空に、これまでの私の人生が映し出された。

どの光景にも、砂の上に二人のあしあとが残されていた。

一つは私のあしあと、もう一つは主のあしあとであった。

これまでの人生の最後の光景が映し出されたとき、

私は砂の上のあしあとに目を留めた。

そこには一つのあしあとしかなかった。

私の人生でいちばんつらく、悲しいときだった。

このことがいつも私の心を乱していたので、

私はその悩みについて主にお尋ねした。

「主よ。私があなたに従うと決心したとき、

あなたは、すべての道において私とともに歩み、

私と語り合ってくださいると約束されました。

それなのに、私の人生の一番辛いとき、

一人のあしあとしかなかったのです。

一番あなたを必要としたときに、

あなたがなぜ私を捨てられたのか、私にはわかりません」

主はささやかれた。

「私の大切な子よ。私はあなたを愛している。

あなたを決して捨てたりはしない。

ましてや、苦しみや試みのときに。

あしあとが一つだったとき、

私はあなたを背負って歩いていた。」

マーガレット・F・パワーズ

オバマの「CHANGE＝変革」は、このような変革も含んでいたのか？

「現職米大統領が公式に
同性婚支持を表明したのは初めて」

ABC ニュース 2012年05月11日 12:00



オバマ米大統領は9日に放映されたABCテレビのインタビューで、同性婚を支持すると表明した。現職の米大統領が同性婚支持を表明したのは初めて。米国の国論を二分する問題をめぐり、大統領選で共和党の指名が確実になっているミット・ロムニー前マ

サチューセッツ州知事と真っ向から対立することになる。

調査機関ギャラップが8日に発表した世論調査では、同性婚を法律で認めるべきだとの回答が50%、認めるべきではないとする回答が48%と賛否が分かれていた。

ディズニーリゾートが同性愛の
結婚式を認める

(インターネットより)

一気に世界的に同性愛が認められつつありますね。

東京ディズニーランドホテルなどディズニーリゾート内の三つの直営ホテルが、同性のカップルが結婚式を挙げることを認める決定をしました。女性カップルがともにウエディングドレスを着るだけでなく、男性の同性カップルがともにタキシード姿で結婚式を挙げることも認めるといいます。



先日、米国ではオバマ大統領が同性愛を許容する発言をしたばかり。今後は日本でも同性愛文化が公に認められる時代が来るのかもしれませんが。

アメリカのオバマ大統領が同性婚を支持する発言をしたのを受け、「オバマ陣営に政治献金が殺到している」とワシントンポストが伝えたそうだ。

聖書の預言：

ルカ 17:28「ロトの時にも同じようなことが起った。人々は食ひ、飲ひ、買ひ、売ひ、植へ、建てなどしていたが、17:29 ロトがソドムから出て行った日に、天から火と硫黄とが降ってきて、彼らをことごとく滅ぼした。17:30 人の子が現れる日も、ちょうどそれと同様であろう」。

英語にソドミー (Sodomy) という表現がある。「不自然」な性行動、不品行のことをいう。

ローマ 1:22-28 彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり、不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せたのである。ゆえに、神は、彼らが心の欲情にかられ、自分のからだを互にはずかして、汚すままに任せられた。彼らは神の真理を変えて虚偽とし、創造者の代りに被造物を拝み、これに仕えたのである。創造者こそ永遠にほむべきものである、アアメン。それゆえ、神は彼らを恥すべき情欲に任せられた。すなわち、彼らの中の女は、その自然の関係を不自然なものに代え、男もまた同じように女との自然の関係を捨てて、互にその情欲の炎を燃やし、男は男に対して恥すべきことをなし、そしてその乱行の当然の報いを、身に受けたのである。そして、彼らは神を認めることを正しいとしなかったので、神は彼らを正しからぬ思いにわたし、なすべからざる事をなすに任せられた。

アメリカの墮落は、宗教指導者たちに、日曜礼拝を強要し、古き良きアメリカ(かつては、アメリカ中、日曜日には教会に行った。その当時、道徳標準は高かった)に戻ろうという叫びを起こさせるであろう。

「宗教界の指導者たちの教えは、不信仰への道、心霊術への道、そして神の律法に対する軽べつへの道を開いてきた。だから、今日のキリスト教界に存在する不法の恐るべき責任は、これらの指導者たちにあるのである。

ところがこの階層の人たちは、急速に広がっている墮落は、主としていわゆる『キリスト教的安息日』を汚すことにその原因があるのだから、日曜日遵守を強制することが社会道徳を大いに向上させるであろうと主張する。この主張が特に強調されるのは、真の安息日の教理が最も広く宣伝伝えられてきたアメリカにおいてである。

日曜日遵守運動の指導者たちは、人々が必要としている改革を提唱し、聖書と調和している諸原則を提唱するかもしれない。しかし、その中に、神の律法に矛盾する要求が含まれているかぎり、主のしもべたちは彼らと手をつなぐことはできない。彼らが神の戒めを捨てて人間の戒めを置いたことは、どんな理由によっても正当化できないのである」大争闘下 349-350。

「霊たちはまた、世の中が非常に悪くなったことを嘆き、道徳的に墮落している状態は日曜日の冒涇(ぼうとく)に原因があるという宗教家たちの証言を支持する」同 356。

「政治的腐敗は、正義を愛し真理を尊ぶ思いを破壊しつつある。そして自由の国アメリカにおいてさえ、為政者や議員たちは民衆の歓心を買うために、日曜日遵守を強制する法律を求める大衆の要求に屈服する。非常に大きな犠牲を払って得られた良心の自由は、もはや尊重されなくなる。まもなく起ころうとしている争闘において、われわれは預言者の言葉の成就を見るのである」同 357。

大衆の要求一世論は、宗教指導者たちによって作り上げられるのであろう。

バチカン放送局より：03/06/2012 18.47.08

ミラノ「第7回世界家庭大会」閉会ミサに100万人
 教皇「家庭によって世界を変えていくように」

教皇、ミラノの「第7回世界家庭大会」を機に免償規定。

教皇ベネディクト 16 世は、ミラノで 30 日より開催

される「世界家庭大会」を機会とした免償規定が発布された。

免償とは、すでに赦された罪に伴う、有限の罰の免除で、これには有限の罰のすべてを免除する全免償と、一部を免除する部分免償とがある。



「神を汚すことを言うこの人は、いったい、何者だ。神おひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」ルカ5:21



教皇庁内教院（院長：マヌエル・モンテイロ・デ・カストロ枢機卿）より発行されたこのたびの規定は、今年5月30日から6月3日にかけてイタリア・ミラノで行なわれる「第7回世界家庭大会」（テーマ：「家庭：労働と祝祭」）中の儀式に敬虔な精神で参加した信者に全免償を、また、どこにおいてもこの大会の精神的目的のために一致して祈る信者に部分免償を与えるもの。いずれの場合も、免償に伴う一定条件を満たすことが必要となる。

2015 年は、アメリカで！

[カトリック指導者たちの小児性愛] スキャンダルにも関わらず、法王はフィラデルフィアを選んだ。

どんな預言的意味があるのだろうか？

クリスチャンの高貴の最高の証拠—自制心 (2希望6)

「柔和な人たちは、さいわいである」(マタイ 5:5)。われわれが会わねばならない困難は、キリストのうちにかくれている柔和によってずっと軽くなる。もしわれわれが、主の謙遜を身につけるなら、われわれは毎日受ける軽蔑や拒絶や迷惑などに超越し、そうしたものが心に暗い影をなげることがなくなる。クリスチャンのうちにある高貴なものについて最高の証拠は自制心である。ののしられたり、ひどい目にあわされたりしたとき、冷静な、信頼に満ちた精神を持ち続けない者は、神がご自身の完全な品性を彼のうちにあらわされる権利を神から奪うのである。へりくだった心は、キリストに従う者たちに勝利を与える力であり、それは彼らが天の宮とつながっている証拠である。

暗黒と誤謬と対照的に (希望下 62,63)

イエスは次から次へと挑戦に応じ、祭司たちパリサイ人たちの暗黒と誤謬と対照的に、純潔な輝かしい真理を示された。イエスは、これらの指導者たちの前に、彼らの真の状態と、彼らがあくまでも悪い行為を改めない場合にならず伴う報いを示された。警告は忠実に与えられてきた。……祭司たち、役人たち、パリサイ人たちの性格をもっと十分にばくろししなければならない。

騒々しい世界の上に王として君臨なさる神

(ミニストリー 303)

神は騒々しいこの世界の上に、王として君臨なさっている。神の目には万事が一目瞭然としており、偉大なる、静寂な永遠のかなたから、最善とみられる所を命令されるのである。

「人の道は自身によるのではなく、歩む人が、その歩みを自分で決めることのできないことを。」(エレミヤ 10:23)

多様性の一致 (ヨハネ 17:20, 21 SB 注解)

(マタ 25:14, 15; マル 13:34). 多様性における一致— [ヨハ 17:20, 21 を引用]。これらの言葉には、どのような種類の一致が述べられているのだろうか。多様性における一致である。我々の頭脳回路はどれも同じではなく、皆に同じ働きが課せられている訳でもない。神はすべての人に、個人の種々の能力に応

じて働きをお与えになった。これらは成されるべき異なる種々の働きで、様々な能力を持つ働き人が必要とされている。もし我々の心が謙遜で、我々が柔和で謙遜になるべくキリストの学校で学んだならば、我々に定められた狭い道を共に前進することができるのである (MS 52, 1904 年)。

1 コリント 1:10. 多様性における一致—神の民の力は、神のひとり子を通しての神との一致、そしてお互いの一致のうちにある。全く同じ木の葉は二つとないように、すべての人の心が同じ方向に動くこともない。しかしそうであっても、多様性における一致はあり得る。キリストは我々の根であり、この根につながれている者は皆、キリストが結んだ実を結ぶであろう。彼らは、話をする才能に、また、そのもてなし、親切、クリスチャンの礼節や天の礼儀を培うことによって、キリストの品性の香りを表すことであろう。

花のじゅうたんを見るがよい。そしてその様々な色の糸に目を留めなさい。すべてがピンクではなく、すべてが緑ではない、すべてが青でもない。多様な色が一緒になって完全な模様を織りなしている。それは神のご計画の中にある。神は、個人として生きることを学ばねばならないところに我々を置かれる目的を持っておられる。我々は全員が同じ種類の働きをするのにふさわしい訳ではなく、各自の働きは神によって、神のご計画を成し遂げる助けとなるように意図されている (RH 1899 年 7 月 4 日)。

初代文集 137 「わたしは、使命者たちが特に、すべての狂信に気をつけていて、それがどこで起こっても阻止しなければならないことを見た。サタンはあらゆる方面から迫ってくる。であるから、彼に気をつけ、その策略やわなに注意して、神のすべての武具をまもっていないと、悪しき者の放つ火の矢に打たれてしまう。神の言葉の中には尊い真理が多く含まれている。しかし、群れが今必要としているのは、「現代の真理」である。わたしは、使命者たちが、現代の真理の重要点を離れて、群れを一致させ魂を清めるのになんの役にもたない問題を、長々と話す危険を見た。」

大争闘上 39 「彼ら (忠実な少数者)は、神に対する忠誠と矛盾しないかぎり、どんな譲歩でもして、平和と一致を保とうとした。しかし、平和のために原則を犠牲にすることは、あまりにも大きな代価であった。真理と正義を曲げなければ得られない一致であるならば、彼らはむしろ不和をも、そして戦争をもいとわなかった。」

米国のメガチャーチ

※ アンカー 41 号でメガチャーチについて記載しましたが、インターネットで見た記事をご紹介します。

このメガチャーチの実態について、本日 (2007 年 7 月 10 日)、NHK のクローズアップ現代で放映される。ぜひ、ご高覧いただきたく。

アメリカの WASP(ホワイト、アングロ・サクソン、プロテスタント) を代表する勢力である福音主義派の教会。この 20 年ほどで全米各地にケーブルテレビ、衛星放送、インターネットなどを活用したテレビ伝道師、スター牧師が続出。信徒数が 1 万人を軽く超え、礼拝出席者が数千人という超巨大教会がいくつも存在している。先駆けになったのがあのブッシュ親子を熱烈に支持してきた悪名高い宗教原理主義者、ビリー・グラハム牧師であるが、その息子、フランクリン・グラハム、あるいは他国元首の暗殺を推奨するパット・ロバートソン、政教一致の提唱者、ジョン・ヘギー、最近立場を少し変えたジョエル・ハンターら多くが非常に保守的な立場をとる (とってきた) 原理主義者である。

このメガチャーチは巨大な政治勢力となり、政治家たちはその声を無視できない。多くの戦争についての是非、増税や社会福祉、銃規制、進化論教育の禁止、妊娠中絶手術の是非、同性愛の許容など、現実の政策の多くに鮮明な共和党色を出す。

原理主義キリスト教徒は全米で少なくとも 25%、6000 万人を超える大集団になった。その中心を担う多くのメガチャーチは、ある意味でアメリカ福音主義派の宗教原理主義の実態を典型的に表す標本のような存在であった。近時、その内容がブッシュ Jr. 政権の凋落と合わせて少しずつであるが変化してきたようであるが、しかし、実際は依然として非常に堅固な右派共和党支持基盤である。

メガチャーチの礼拝はまるで人気歌手のポップスコンサートのよう。静かで落ち着いた静謐な精神的空間とはまるで形容し得ない。お山の大将的なカリスマリーダーシップを持った牧師が陶酔的演説 (時に礼拝の説教というに相応し

くない場合もある) を行って

信徒の心を惹きつける。私も実際に体験したことがあるが、たいへんなカルチャーショックを受けたものである。

アメリカのこうした右派宗教原理主義は、キリスト教の非常に極端な変形、亜種というのが適切であり、アメリカ的な変異種である。すなわち、「アメリカ的特異キリスト教」であって、自国アメリカの政治に合わせてキリスト教を都合良く切り取って継ぎ接ぎしていく思考回路を大規模に採用。彼らは共和党正副大統領と足並みを揃え、単純にアメリカの栄光と繁栄のためにキリスト教を都合良く利用しているだけである。だから、イラク戦争にせよ、極端な富の偏在・貧困格差など、露骨にキリスト教の根幹的教えと反する社会の現実にも平然と目をつむる。つまり、あれはキリスト教ではなく、「ピルグリムファーザーズ教」、「保守アメリカ教」である。

7 月 10 日 (火) 放送

巨大教会が政治を動かす—アメリカからの報告—

【衛星放送・BS2 の放送は、20:34 ~】

今、アメリカでは「メガチャーチ」と呼ばれる巨大教会を拠点に信者が急増。来年行われる大統領選挙にも影響を与える勢力として注目を集めている。メガチャーチはショッピングモールのような施設にレストランから託児所まで備えた一種のコミュニティ空間。格差や競争で分断された人々が集える「場」となっている。これまで宗教保守の牙城だったメガチャーチだが、信者の急増によって「中絶反対」「同性婚反対」だけでなく、「温暖化」や「貧困」といった問題も重視し、政策的には民主党に接近。"宗教に熱心な人=共和党支持" という構図が変わりつつある。宗教と政治が密接に絡み合うアメリカで、早くも過熱する大統領選の知られざる側面に迫る。



書籍案内

驚くべき発見! 聖書考古学講演 収録 DVD 7 枚組

2012年4月にもたれた聖書考古学講演会、全24時間の講義を収録。初回限定でビデオクリップ集付き。聖書考古学のみならず聖書の確実性を、ダニエル書と黙示録の預言から知る。



- No. 1 ① 出エジプトルート (1:17:06)
② ソドムとゴモラ (0:51:55)
③ ノアの箱船 (1:20:26)
- No. 2 ④ イエスの墓 (1:17:53)
⑤ 契約の箱 (2:03:22)
- No. 3 ⑥ 出エジプトルート、紅海、シナイ山 (1:33:37)
⑦ ソドムとゴモラ (1:00:21)
- No. 4 ⑧ ノアの箱船 (1:50:17)
⑨ イエスの墓 (1:23:12)
- No. 5 ⑩ 恐竜、ノアの箱船 (1:55:57)
⑪ 失われたアーク (1:49:31)
- No. 6 ⑫ ダニエル書2章 (0:52:37)
⑬ 世界の歴史—ダニエル書7,8,3章 (1:10:12)
⑭ 小さな角—ダニエル書7章 (1:37:52)
♪ 讚美歌集 (0:21:01)
- No. 7 ⑮ 海からの獣—黙示録13章 (1:23:18)
⑯ 聖書に預言されたアメリカ合衆国 (1:02:27)
⑰ 終末のしるし—マタイ24章 (1:45:18)

¥3,000 (片面2層式ディスク7)

聖書考古学ビデオクリップ集

ロス・パターソン氏による聖書考古学講演会の中で上映されたものを収録。聖書考古学の驚くべき発見の様子とあらゆる証拠映像で綴るドキュメンタリービデオクリップ。数々の発見のあらすじをこの一枚で見る事が出来る。日本語字幕。

- 1. ノアの箱船
Noah's Ark (0:34:03)
- 2. ソドムとゴモラ
Sodom and Gomorra (0:16:00)
- 3. イエスの墓はどこに?
The Garden Tomb (0:16:24)
- 4. 出エジプトからシナイまで
The Red Sea Crossing (0:18:10)
- 5. 本当のシナイ山
The Real Mount Sinai (0:20:47)
- 6. 失われたアークの謎
Where Are The Ten Commandments (0:05:35)
- 7. 契約の箱の発掘
The Ark Of the Covenant: Detail (0:23:04)



¥500

The Ark Of the Covenant: Detail (0:23:04) (片面2層式ディスク1枚)

ディスカバリータイムス

考古学的諸発見が聖書を実証する!現代の考古学的発見の終末的意味と警告。ロン・ワイアットの驚くべき考古学的発見に多くの人が目覚めている。



無料 (A4 16頁)

Vegetarian **HERB**
Restaurant
菜食レストランハーブ



"みなさまのお越しを心よりお待ちしております"

OPEN AM11:00~PM 6:00 CLOSE 金・土

<http://herb.srministry.com/>

※春・秋に一週間ほどの臨時休業がございます。

沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471 TEL & FAX 0980-56-5681